

生徒が主役！本気の学校改革



SDGs探究学習で製作したマンボウ



LDX学校公開(R6.1.18)

生徒まんなか

未来の学校づくり

おいでんせえ



荘内中マスコットキャラ
「つねたまちゃん」

岡山県玉野市立荘内中学校

目 次

1 学校公開スケジュール等	1
2 荘内中学校の概要	3
3 全体会プレゼン資料	13
4 分科会プレゼン資料	
① 持続可能な学校現場の実現を目指して	26
② 未来社会で必要なコンピテンシーの育成を目指して	32
③ 主体的な学習者の育成を目指して	38
④ 自走する生徒の育成を目指して	45
⑤ きめ細やかな支援を目指して	51
5 公開授業指導案	
①2時間目	57
②3時間目	72
6 記念講演	86
鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授 泰山 裕 先生 「NEXT GIGAへの挑戦」	
7 事前質問への回答	88



【注意事項】

- ① 写真撮影は可ですが、自校の校内研修等での活用に限定してください。
学校外へ公開したい場合は、その都度、本校へ許可申請をお願いします。
- ② トイレは12時までは、2線校舎(自転車置場側)を使用してください。
12時以降は、どこを使用いただいても構いません。
- ③ 飲食は体育館をお願いします。
- ④ 自動販売機は積極的に利用してください。生徒会が儲かります。

LDX学校公開 岡山県玉野市立荘内中学校



本校では、「生徒が主役」をモットーとして未来の学校づくりを進めてきました。学校を小さな社会として捉え、生徒会組織を有効に活用しながら、「生徒が創る学校」となるよう、予算や校則も生徒会に委ねています。また、みんなのために取り組みたいことや、改善したい事があれば、生徒会員であればだれでも校長に具申書を提出するようにしています。加えて、自走する学習者になってほしいという思いから「荘内まなびスタイル」(先行学習を基盤とした協働学習)に、年度途中から自由進度学習の考え方を取り入れ、一層望ましい授業の在り方を検討中です。

改革を実現する大きな要因はChromebookの徹底活用です。まだまだ学校改革も授業改善も道半ばですが、本校の様子を見ていただき、様々な意見をいただけたらありがたいと思います。

校長 住田 義広



本日のスケジュール

9:30 開会(日程説明:体育館)

9:45～授業公開①(全クラス)

10:45～授業公開②(全クラス)

11:45～企業ブース説明及び昼食(体育館)

13:30～全体説明(学校概要:体育館)

14:20～各ブース説明(運動場側校舎2～3階)

※1ブース30分で2回行いますので、2ブース参加してください。

15:45～記念講演(鳴門教育大学 泰山先生:体育館)

演題「NEXTGIGAへの挑戦」

16:45～閉会

いろいろな授業を自由に見て回ってください。



👉学校のHPです。

LDX事業の取組だけでなく、特色ある学校づくりを紹介していますのでご覧ください。



👉生徒会が運営する「X」です。

楽しい取組を紹介していますのでご覧ください。

授業公開

クラス	9:45～ 2時間目	10:45～ 3時間目
1A	社会 (宇野)	国語 (番場)
1B	美術 (行友)美術室	英語 (大西・ニコラ)
1C	音楽 (曾田)音楽室	学活(ENA) (貝原)
1D	数学 (松下)	理科 (早川)
2A	数学 (古谷)	技術 (清水)
2B	理科 (伊谷)第2理科室	保体 (上垣)
2C	国語 (山本龍)	社会 (高馬)
2D	英語 (谷本)	数学 (古谷)
3①	理科(MT) (山本駿)	家庭科 (丹治)
3②	英語 (満・ニコラ)	国語 (佐藤)
3③	保体 (酒井)	社会(MT) (高田)
3④	数学(MT) (下地)	英語(MT) (依田)
1J	理科 (早川)	国語 (近藤)
2・3J	社会 (高馬)	(交流)
I	国語 (近藤)	社会 (宇野)

※ENAは次世代型人材育成教材「ENAGEED」

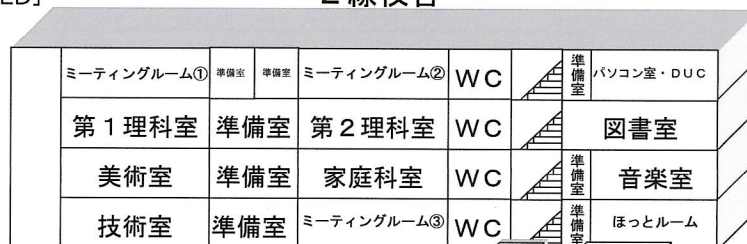
※MTは本校独自の取組「まなトレ」

分科会

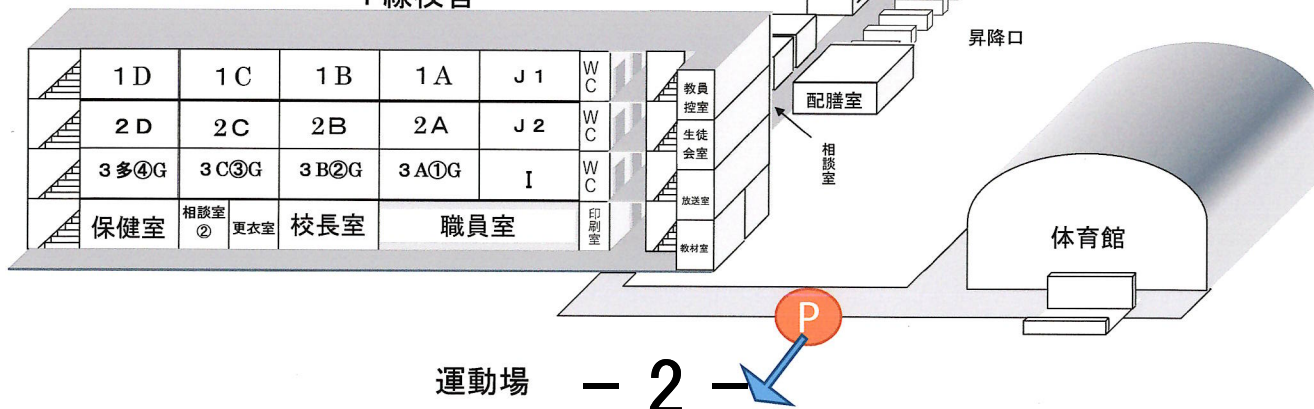
テーマ	主な内容
① 持続可能な学校現場の実現を目指して (3-①, ②)	・ICT化による業務効率の向上 ・働き方改革の徹底 ・学校教育内容のパッケージ化
② 未来社会に必要なコンピテンシーの育成を目指して (3-③, ④)	・こみゅトレ(コミュニケーショントレーニング) ・まなトレ(まなび方トレーニング) ・ねっトレ(情報モラル教育等) ・ENAGEED
③ 主体的な学習者の育成を目指して (2-A, B)	・荘内まなびスタイル (先行学習を基盤とした協働学習 & 自由進度学習) ・思考ツールの活用 ・学習アプリの活用 ・2カ月サイクル学習
④ 自走する生徒の育成を目指して (2-C, D)	・教育活動におけるICTの徹底活用 ・生徒会活動 ・学プロ活動(学校生活向上プロジェクトチーム) ・校則譲渡とルールメイキング ・具申書提出制度
⑤ きめ細やかな支援を目指して (1-A, B)	・GOODBEHAVIOR ・各種分析ツールの活用 (Web-QU, SEHS) ・校内支援体制の充実 (登校支援室、通級指導教室)



2線校舎



1線校舎



教育DXを進め、未来の生徒の学び方、未来の教職員の働き方を実現します！

中学校教育の使命

- ◆社会構造が根底から変わり続け、人間の生き方・働き方、幸福の価値観が変化していく時代を生きていくための資質・能力を育成
- ◆Society5.0時代に持続可能な社会の実現に向けて貢献できる人材を育成

これが我らの荘内中学校！

「SHONAIみらい学」(キャリア教育)の推進

- ①SDGs探究学習(これからの社会を考え、自分の生き方も考える！)
 - ②キャリア探究学習(自分を見つめ未来を考える！)
- 課題解決型学習で社会で活躍できる力を育成
金融教育等の今日の課題も網羅

総合的な学習の時間を中心に学校教育全体で推進

学校は小さな社会

社会人として必要な資質・能力を育成

生徒会への参画意識の向上

- ・学校の活性化を自分事と捉えて行動
- ・充実策等を積極的に提案
- ・会員規則の主体的運営で自律心育成

生徒会組織運営の充実
(行政組織的な位置付け)

生徒会執行部
代議員会
各種委員会
予算委員会

「こみゅトレ」(コミュニケーション)
「まなトレ」(学び方)
「ねっトレ」(情報モラル・メディアリテラシー)

学校生活向上プロジェクトチームの充実「学プロ」
(地域自治組織的な位置付け)

「荘内まなびスタイル」(先行学習を基盤とした協働学習)

- ①先行学習でスタディサプリー等の課題に取り組み、授業時間では協働学習を実施
- ②学力診断テストを2カ月に1回実施し、テストに向かう力を育成(2ヶ月サイクル学習)

GIGAスクールの徹底推進(Chromebookは文房具)

- ・持ち帰り、予習や課題提出等に活用(オンライン会議や、オンライン授業に対応)
- ・授業では調べ活動や学習内容のまとめ、協働学習に活用
- ・生徒会や学プロ、部活動等の各種活動に活用

生徒の主体性育成を重視した生徒指導(考えさせる指導)

授業や学校行事で生徒を活躍させ、教員はコーディネーター役

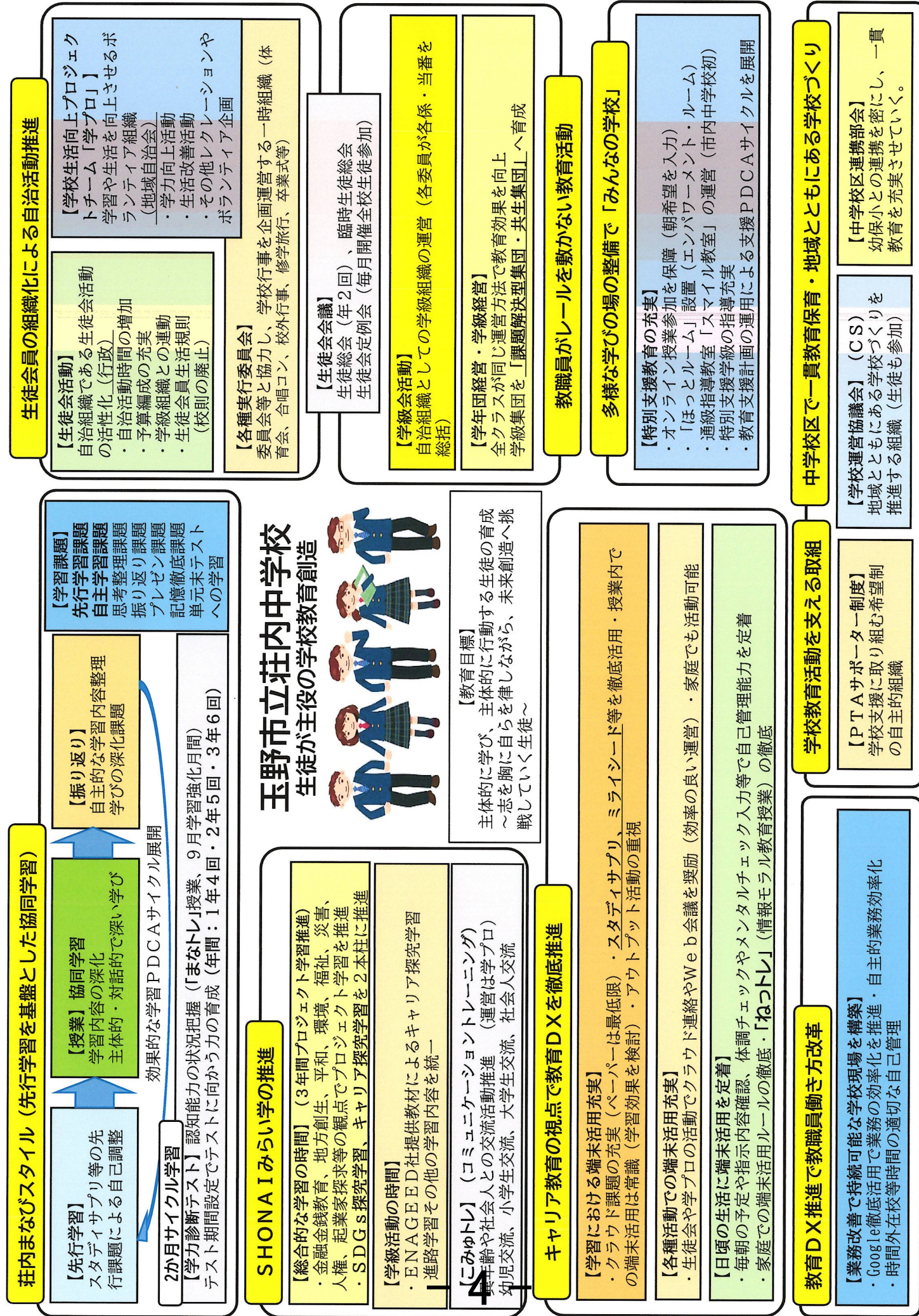
PBIS: ポジティブな行動介入と支援(Good Behavior) & TPOの徹底指導

ENAGEED社の自己探求教材等で未来に向かう力を育成

多様な学びの場を整備し「みんなの学校」を実現

- 様々な課題を抱える生徒に個別最適な学びの場を提供し、社会的自立を図る。
- ・特別支援学級、「スマイル教室」通級による指導、「ほっとルーム」(エンパワーメント・ルーム)、相談室、オンライン授業参加、オンライン悩み相談、その他柔軟に対応

中学校区一貫教育で、繋がりのある効果的な学校教育を推進



[illegible]

★まなトレ（学力担当）、ねっトレ（GIGA担当）、こみゅトレ（生徒会担当）それぞれの取組は、令和4年の取組を参考にしながら、各担当が3学年で相談しつつ、2ヶ月前には企画案を立案していくこと。

荘内中版:学びスタイル「先行学習を基盤とした協働学習」

【荘内小学校で定着させる中学校での学びに向かう力の育成】

小学校では中学校での学びスタイルを意識して小学校卒業時の資質・能力を育成

- ①学び合い活動充実の中で協働学習へ移行するための資質・能力を育成
- ②発達段階に応じた予習・復習の学習サイクル推進能力の育成(チャレンジノートの取組等)
- ③発達段階に応じた情報活用力・情報編集力及び学習用端末活用力の育成

円滑な移行

管理職部会・学力向上部会で定期的に小中一貫教育による学力向上を協議

荘内中版:学びスタイル

これからの社会活動を想定し学習用端末使用による学びの姿の理想像をイメージしながら学習活動をデザインすること。

【学びスタイルの概要】

- ①先行学習として、授業以前に学習内容の概要をイメージし見通しをもって自学自習に取り組む予習学習活動を基盤とした授業をデザインする。
- ②授業では協働学習を推進し、他者の意見や考えを取り入れながら自己分析・自己調整を繰り返しながら個別最適化学習に意欲的に取り組み、自己を高めようとするよう指導法を工夫する。
- ③習得場面や探求場面における「課題解決型学習」を推進し、教え合い高め合いながら集団で学力向上を目指すよう指導法を工夫する。
- ④生徒の自己評価や学習状況を把握し、特別な学習支援が必要な生徒に対し、協働学習の中での個別支援や個別最適化課題等により特別な支援を行う。

1 先行学習活動を重視(メタ認知能力の醸成)

先行学習(各単元の学習内容に応じて設定)

- (1)授業前の教師が指定した内容を予習する学習
- (2)単元全体の学習内容を予習する学習
- (3)生徒が独自に取り組む予習学習

先行学習による学習履歴はクラウドでの提出やチャレンジノートの提出その他多様な形態が想定される。教師はどのような形態の学習履歴であっても適切に評価する。

【先行学習の留意点】

- (1)教科書を読解する活動を重視して提示
 - ①教科書を読解する力は、自学自習の基本的且つ重要な能力であることを重視して指導を徹底
 - ②単元評価に反映するため、教科書を読解した学習履歴を残す課題設定を工夫
- (2)学習用端末を活用するクラウド予習課題を提示
 - ①教科書読解後にスタディサプリでの動画視聴及び確認テストによる自己調整を行うとともに、ミライシードによる自学自習の深化活動を奨励
- (3)チャレンジノートによる自学自習学習の整理(ノート及びデータの個別選択)
 - ①先行学習活動により習得した学習内容の整理や疑問点、協働で話したい事項等をチャレンジノートにまとめる活動を奨励
 - ②独自に考案したデータによるまとめ活動も奨励

2 協働学習による授業デザイン

協働学習(生徒に提示する項目)

- (1)授業で自分が何をすべきか理解しよう。
- (2)グループ活動に参加する前に自分の考えを持とう。
- (3)グループの中で自分の役割を果たし、仲間の成長のために助け合おう。
- (4)人の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしよう。
- (5)授業後に自分がどんな学習に取り組むべきか考えよう。

協働学習の意義を生徒に伝えながら、提示項目を実施して学習に取り組んでいるかどうかを自己評価しながら取り組んでいくよう授業内容をデザインしていく必要がある。

授業は各単元を貫く学習目標の達成を目指して多角的に計画されるものであり、一律に授業の流れを決めるものではないが、予習活動を前提とした先行学習と授業における協働学習の推進は本校の学びスタイルである事を踏まえ、指導計画を立案することが重要である。

単元
目標

先行学習と協働学習の観点で
単元を貫く授業デザイン

各授業SCENEを
単元計画の中で適切にデザイン

先行学習
評価

授業内
評価

単元末テ
スト評価

再チャレンジ
テスト評価

個別最適化支援

再挑戦による再評価

荘内中版:学びスタイル「先行学習を基盤とした協働学習」

各授業SCENEは、1単位時間にいくつか設定される場合もあれば、1SCENEで1単位時間を費やしたり、学習内容により様々な構成が考えられる。単元の全体計画の中で適切にデザインしていくことが大切である。

SCENE1 先行学習内容の確認場面「学習意欲の向上」

- ①予習課題の学習内容を短時間で教授
- ②生徒の疑問点や協働で話し合いたい事項等を確認
- ③生徒の理解度を確認
 - ・理解度確認問題の実施やクラウドでの疑問点や提案等の事前提出等
 - ・意見共有アプリ等を活用して学級集団の学習全体像を明確化
- ④生徒の相互説明による学習内容の確認等の学習活動
 - ・生徒が整理したデータやノートによる説明(教え合う場面設定)

1単位時間が基本

SCENE2 教師の補説及び学習目標提示「教師の説明」「学習デザインを明確化」

- ①生徒の理解度から勘案し、必要な補説を実施し、学習ポイントを焦点化して教授
- ②学級全体の先行学習の状況を整理し学習の方向性を明確化
- ③学習目標・協働解決課題を提示

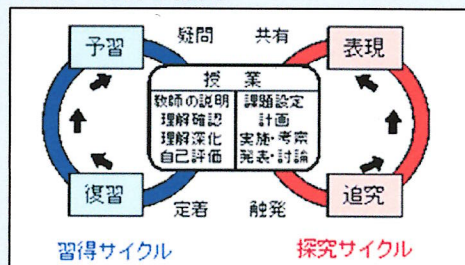
SCENE3 協働学習による学習内容の習得場面を設定「理解深化」

- ①学習目標を達成できる適切な学習課題を提示
- ②生徒の学習組織設定を工夫(自己責任と互惠関係)
- ③個別解を持つ場面を設定
- ④課題解決型学習を個別・ペア・グループ活動等で実施
 - ・個別解から活動の中で自分の考えを深化、修正することを重視「自己評価」
- ⑤アウトプット活動を積極的に設定

SCENE4 協働学習による学習内容の探求場面を設定「応用力育成」

- ①単元を貫く学習目標を実現するための探求課題を設定
- ②課題解決型学習を個別・ペア・グループ活動等で実施
 - ・個別解から活動の中で自分の考えを深化、修正することを重視「自己評価」
 - ・既習内容を活用しながら協働で課題を探求
- ③解を取りまとめてアウトプットすることで学習内容の一層の深化・定着を推進

★SCENE3・4については、単元目標の実現の観点からどのように設定すべきかを勘案し、学習効果が期待されるよう単元学習内に適切に位置づける。
また、グループ活動場面での個々の生徒の振り返り場面を設定しながら個別の学習進度を確認し、個別支援を行わなければ、個々の学力向上は図れない。



SCENE5 自己評価場面の設定「振り返り」「自己調整」

- ①予習課題実施後の自己評価から単元を通して適切な学習場面で自己評価を行って自己調整をする学習履歴を残す場面を設定
- ②単元末テスト実施後は自己評価表を記入させ、自己の学習内容の定着度から自分が再学習すべき項目を立案

3 授業実施後の課題提示

- (1)既習内容を整理する課題を提示
- (2)個別最適が学習内容を提示
- (3)協働学習を進める中で個の役割を果たす課題を提示
- (4)アウトプットのための整理課題を提示

単元内で学習のPDCAサイクルを展開し個別最適な学びに向かう力を醸成

4 その他の視点

- (1)SDGsの観点を常に意識し、学習内容を教授する。(社会・生活に繋がる学習推進)
- (2)キャリア教育の観点を常に意識し、授業の中で未来社会をイメージさせる。

「まなトレ」(荘内まなびスタイルを徹底し学力向上を図る)①

自分自身に学力だけでなく様々な資質能力を身につけることが未来社会を生きる力となると考える。荘内まなびスタイルの中で、自分をアップデートする生徒への働きかけが必要です。先生や保護者から言われるから取り組むのではなく、自分の意思で取り組まなければ、真の学力は身につかないという理念で取組を進める必要がある。定期的に時間を取り指導をしていくことが重要である。(各教科の授業でも説明)

1 評価・評定をアップデートするために

多様な項目で評価



【各単元・学習のまとまり全体を通して学習を進める】

各教科では、単元ごとに学習の流れを示し、単元末テスト等のゴールを明確に知らせる。生徒は単元全体の学習の進捗を意識して、日頃の先行学習課題等に取り組ませ、単元末テストに向けて自主学習を推進する。

★教科書を徹底的に読む、単元のスタディサプリやミライシードを繰り返し取り組む、チャレンジノートに学習内容をまとめる。

【日頃の授業を中心に学習を進める】

先行学習として、授業以前に学習内容の概要をイメージし見通しをもって自学自習に取り組む予習学習活動を行い、授業では協働学習を推進して、他者の意見や考えを取り入れながら自己分析・自己調整を繰り返しながら個別最適な学習に意欲的に取り組み、自己の学力を高めるよう指導する。

★先行学習課題は必ず取り組み、授業内では積極的に協働学習に挑戦する。アウトプット活動をがんばる。

【単元末テストに挑戦する】(できるだけ業者作成のものを使用することで学力水準を担保すること。)

示されている単元末テストへ挑戦するための取組内容を計画的に実行し、単元末テストにチャレンジさせる。その後、再チャレンジテストに挑戦することも可能とし、向上心を高める。(下方修正もあり)

★計画的に単元末テストにチャレンジする。結果に満足できない場合はしっかり復習して再チャレンジする。

各学期の単元ごとの評価がその学期の評定となる。日頃のまなびスタイルでの学習に適切に取り組むことが評価評定のアップデートにつながることを意識させること。



2 得点力をアップデートするために(2ヶ月サイクル学習)

学プロの活用が重要

1年間を通して、2ヶ月程度の期間ごとに「学力診断テスト」を実施する。このテストは、業者作成テストであるため、岡山県における学力水準の中で、自分の学力状況がどの程度か診断することができる。このテストを活用しながら生徒が自分の弱点を分析し、克服していくよう自主学習に取り組むよう働きかける。

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	国テ	○				○		○		○		
2年	○ 県テ		○			○		○		○		
3年	○ 国テ		○		○	○		○	進路 決定	○ 入試	入試	○ 入試

○:学力診断テスト、
国テ:全国学力学習状況調査
県テ:岡山県学力学習状況調査
9月は学習強化月間
1月:私立一期入試
2月:私立2期入試・公立特別入試
3月:公立一般入試

学力
診断
テスト

結果の分析で弱点整理
次回のテストまでの学習計画作成
苦手なところに挑戦する
【弱点領域の学習を徹底】
スタディサプリ・ミライシード活用
教科書・ワーク活用

学力
診断
テスト

結果の分析で弱点整理
次回のテストまでの学習計画作成
苦手なところに挑戦する
【弱点領域の学習を徹底】
スタディサプリ・ミライシード活用
教科書・ワーク活用

学力
診断
テスト

自分をアップデートするための学習サイクル

高校入試等では、得点力も必要である。中学校入学後から3年生の12月の進路決定までに、自分の得点力をアップデートしていく意識を徹底して持たせていく。



毎日の計画的な学習の積み重ねで自分をアップデートできる、自分の望む未来をつかむため、しっかり取り組む意識を醸成する。

「まなトレ」(荘内まなびスタイルを徹底し学力向上を図る)②

1 荘内学びスタイルの学習成果を理解する。

荘内学びスタイル(先行学習を基盤とした協働学習)の中での学習がどのような成果があり、しっかり頑張れば学力向上が実現できることを自覚させなければ、意欲的な取組には繋がらない。しっかりその理念を伝えなければならない。

先行学習のメリット

- ・教師の先行課題
- ・教科書を読む
- ・スタディサプリ
- ・AIドリル

- ①自ら進んで教科書をしっかり読んでおくことで読解力が高まる。
- ②わかることとわからないことが事前にわかるので授業で何をすべきか明確にできる。
- ③先行して学習内容のイメージが持てるので授業内の理解度が高まる。
- ④自分の考えを整理しておき授業で他の人の考えを聞くので足りない部分がよくわかる。

全員参加の授業 協働学習のメリット

- ・自分の責任を果たす
- ・わからないと言える。
- ・お互いに高め合う。

- ①一斉授業と違い、全員が授業に参加できる。
- ②お互いにわからないところを教え合い高め合うため、グループ全体で学習内容を理解できるようになり、取り残される者が出ない。
- ③一斉指導の授業では説明を聞くなどのインプット学習の割合が多いが、協働学習では話し合ったり説明し合うため、ほとんどがアウトプット学習となる。
- ④学力向上だけでなく人間力の育成、課題解決型集団という望ましい集団形成が実現でき、全員のウェル・ビーイングに繋がる。

授業後の自主学習

- ・チャレンジノート
- ・ワーク
- ・クラウド整理

- ①学習内容を自分で復習すると定着度が高まる。
- ②自分の方法でチャレンジノート等に学習内容をまとめると定着度が高まる。
- ③AIドリルやワークに繰り返し挑戦するとテスト対応の実践力が高まる。
- ④学習内容は単元全体でイメージするように心がける。

【非常に重要なポイント】

脳科学で明らかになった学習効果を上げるのはアウトプット活動を重視した学習であること！生徒にしっかり理解させ、積極的にアウトプット活動に取り組ませる必要があるとともに、授業でも協働学習を進めることはマストである！また、協働学習での活動は集団づくりだけでなく、就職後の協働業務遂行にも役立つキャリア教育の視点からも重要であることを生徒に理解させること。

最新の脳科学でわかった！



2 その他、様々な学習に関する取組を考えさせる。

(1)教科書をどう使うべきか。

- ①教科書がすべてであることを意識させる。
- ②ポイントを書き込んだり教科書を最高の参考書とする。

(2)ノートはどう使うべきか。

- ①ノートを取る目的は何かを考えさせる。
- ②ノートは作成後、どのように活用するためのものかを考えさせる。

(3)ワークはどう使うべきか。

- ①自分の弱点を繰り返し取り組むためにはどう使うべきか。
- ②テスト対策としてどのような使い方をすべきか。

(4)基本的な学習サイクルはどうあるべきか。

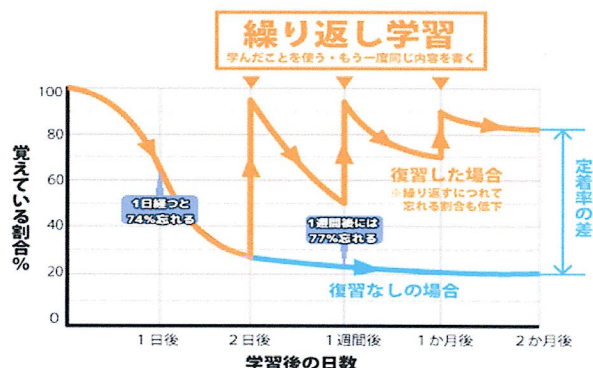
- ①エビングハウスの忘却曲線を考えてみる。
- ②忘れないために繰り返し学習はどうあるべきか。

教員が様々な学習レールを敷いてやるのではなく、自律した学習者として自分で取り組んでいくよう指導すること。

デジタルでまとめた方がいい生徒とアナログでまとめた方がいい生徒がいる。基本的にハイブリッドで良い。

ノートは板書を移すためのものではなく、学習の目的を確実に考えさせることが重要である。個人で異なるため、自分で考えさせるための材料を提示して支援すべき。

エビングハウスの忘却曲線(脳の忘れるしくみ)より



「こみゅトレ」(Society5.0時代のコミュニケーション能力を育成)

Society5.0時代の重要な資質能力のひとつとしてコミュニケーション能力が上げられる。対面での対応及びオンラインでの対応というハイブリッドな交流能力の育成が重要であると認識される。生徒たちは社会に出れば様々な世代とハイブリッドな交流を行うことが求められるようになるため、中学校では意図的に様々なシチュエーションによる交流活動を仕組んでいく必要がある。その取組を「こみゅトレ」として本校では重要視している。

【「こみゅトレ」の目標】

今後の社会では、対面だけでなくオンラインも含めてハイブリッドなシチュエーションによる対人関係構築能力が必要であるため、意図的にコミュニケーション能力育成のための取組を推進し、望ましい次世代型コミュニケーション能力の育成を推進する。

4月

【1・3年】テーマ:3年生が新入生にMeet等の使い方を指導

【全学年】テーマ:生徒会会員規則、ルールの在り方について協議

5月

【全学年】テーマ「中学生生活を充実させるために」(オンライン実施)

7月

【3年】IPU訪問:大学生との交流活動実施、テーマ:進路決定の在り方

9月

【全学年】テーマ:自主学習の取組について

【全学年】テーマ:学校生活をより良くするために

10月

【3年生】小学6年生とのこみゅトレ実施 テーマ:中学校生活について

【2年生】社会人とのこみゅトレ実施 テーマ:幸せに生きるために
学校運営協議会委員が立案

11月

【2年生】小学6年生とのこみゅトレ実施 テーマ:先輩って何?

【全学年】全校こみゅトレ実施 テーマ:進路決定の在り方について

【3年生】面接トレーニング

1月

【全学年】テーマ:受験に向かう自主勉強について

その他、必要に応じて開催を検討する。

全校単位、学年単位、学級単位、様々な形態が考えられる。

大切なのは実施目的を明確に生徒が理解し、自分をアップデートするために行うという姿勢になっていることである。

これからの社会では、コミュニケーションには様々な場面があり多角的に仕組んでいく必要がある。

(1) アナログコミュニケーション

- ① 1対1のコミュニケーション
- ② 面接型コミュニケーション
- ③ 小グループでのコミュニケーション
- ④ 学級単位でのコミュニケーション
- ⑤ 通話コミュニケーション

(2) デジタルコミュニケーション

- ① オンライン授業参加によるコミュニケーション
- ② オンライン面談コミュニケーション
- ③ オンライン小グループコミュニケーション

(3) 文字によるコミュニケーション

- ① メールコミュニケーション
- ② SNSコミュニケーション



※(2)(3)については「ねっトレ」と関連する場合が多いため、総合的に推進すること。

【留意事項】

- ・生徒の中には緘黙等の様々な課題のある者もいるため、無理をさせて強制的に参加させることがないようにすること。
- ・社会人等の外部人材と関係する実施については、事前指導を徹底するなど失礼のないよう配慮すること。
- ・特別支援学級の生徒はテーマにより参加することが効果的である場合に参加させること。
- ・グループ編成等は配慮が必要な場合は慎重に行うこと。

◆令和5年度は学活や総合の時間の取組を総合的に推進する中で、適切な「こみゅトレ」としての取組を明確化していくこととする。

◆総合的な学習の時間によるPBLの推進の中で外部機関の方との交流活動もこみゅトレの一環として重視する必要がある。

◆社会人交流の望ましい姿を検討し、持続可能な取組の在り方を検討する。

◆交流活動のテーマ設定は重要であり、生徒を適切に成長させるための取組を柔軟に検討していく必要がある。

◆基本的に上級学年がモデルとなり下級学年を成長させるという前提を大切にして実施を検討する必要がある。

◆幼児等の未就学児との交流も教育成果が高いものと認識し中学校区での交流活動を推進すべきである。

「ねっトレ」(情報モラル教育 & メディアリテラシー推進)

教育DXによる学校教育のデジタル化では情報モラル教育(情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成)とメディアリテラシー教育(必要な情報を効果的に探し出し、見つけた情報を適切に評価・活用できる能力を育成)を効果的に推進する必要がある。本校では年間をととして「ねっトレ」(ネット関連トレーニング)として効果的に取り組むこととしている。

【「ねっトレ」の目標】

学習用端末等の機器の適切な使用や破損回避能力を身に付けながら、情報社会の中で、人権・知的財産権など自他の権利を尊重し、自分の行動に責任をもち、犯罪被害を含む危険回避能力を身に付け、健康との関わりにも留意して、適正に生きていくための情報活用能力を育成する。

4月

- ①【全学年】学習用端末使用上のルール(生徒会員規則及び学校ルール)の徹底
- ②【全学年】端末破損防止指導の徹底(事例も示しながら具体的に指導)
- ③【全学年】家庭内ルールを作成させ提出
- ④【1・3年】「こみゅトレ」実施で3年生が新入生にMeet等の使い方を指導
- ⑤【1年】「ネット情報の適切な評価・活用を考える」
- ⑥【1・2年】「ネット上の危険回避について考える」
- ⑦【全学年】Googleドライブのデータ管理等について指導

5月

- ①【全学年】端末破損防止強化月間(各学年の学プロで対策を企画)
- ②【1年】「オンライン会議の留意点を考える」
- ③【全学年】オンライン「こみゅトレ」実施:テーマ「中学生生活を充実させるために」

6月

- ①【全学年】「ネット上の人権尊重について考える」
- ②【全学年】クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)
- ③【全学年】オンライン授業実施

7月

- ①【全学年】「ネット依存等、健康について考える」(アンケート結果も活用)
- ②【全学年】長期休業中の端末使用ルールを自己決定させる。
- ③【全学年】ネット検索した結果等を取りまとめて分析整理する課題を宿題とする。

8月

- ①【全学級】オンライン登校日を設定し実施する。
(指定日指定時刻にオンライン会議に参加:キャリア教育の視点)

9月(破損の有無の確認・防止指導)

- ①【全学年】「情報システムの特長(アルゴリズム等)を考える」
- ②【全学年】「メッセージアプリ・文字によるコミュニケーションを考える」

10月

- ①【全学年】「著作権・ネット人権について考える」
- ②【全学年】オンライン授業実施

11月

- ①【全学年】クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)

12月

- ①【全学年】「端末活用を行ってきた自分を振り返って」(総合的な整理)

1月(破損の有無の確認・防止指導)

- ①【全学年】「情報社会の中で適正に生きることについて考える」
- ②【全学年】オンライン授業実施

2月

- ①【全学年】次年度に向けたデータ整理等について

◆令和5年度は左記の項目の指導内容を確立する。
・禁止項目を伝える指導ではなく、自分たちで考える協働的な学びを意識していく必要がある。
・授業内での取組だけでなく、委員会活動や学プロ活動を有機的に連動させ、学校全体で適切に情報社会と向き合う機運を醸成する必要がある。

◆実施時間は学活、総合、技術の時間等、多様に考えられるため、総合的にこういった形が望ましいか検討しながら進めていく必要がある。

◆このほか、プレゼン力指導等、アウトプット力の育成のための指導も必要であるため、多角的かつ柔軟な取組を進め、本校の情報モラル教育&メディアリテラシー教育の在り方を確立することが重要である。

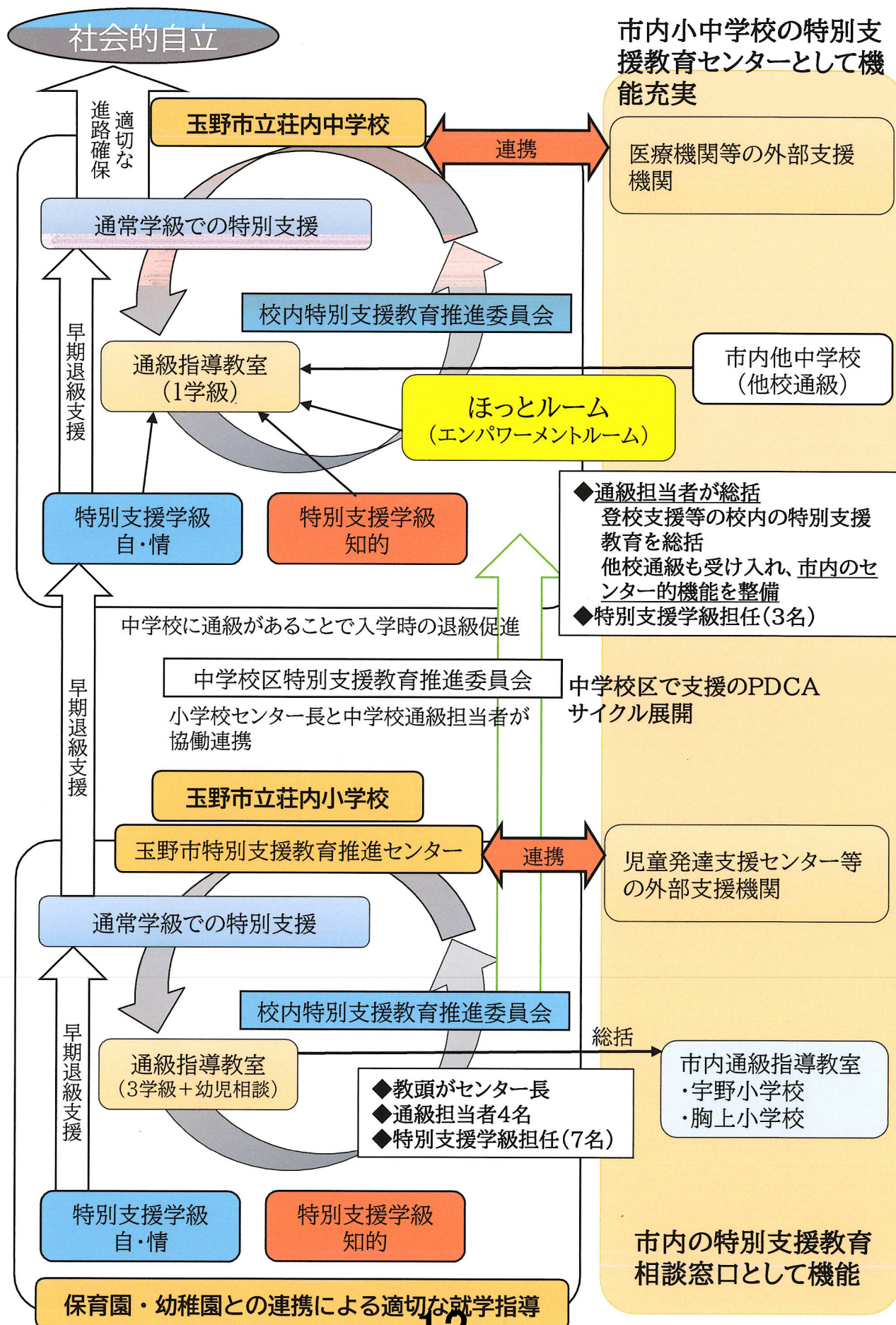
◆小学校段階での取組を意識して一貫した指導となるよう工夫する必要がある。

ねっトレ時間以外で各教科等の時間で意識すべき観点「マルチモーダルテキスト」を読む読解力育成

Web上のデジタルテキストは進化を続け、文字情報だけでなく絵や写真、イラスト、図などの画像や動画、音楽など混成型テキスト(マルチモーダルテキスト)になっている。Society5.0時代の真の読解力とは、こうしたマルチモーダルテキストを読解する力であると考えられる。全国学力状況調査でもそうした傾向のある問題が出題されている。各教科ではそうした次世代型の教育の在るべき姿を認識し、授業においては、マルチモーダルテキストを活用しながら読解力を高める取組を進める中で、「ねっトレ」が目指す目標実現を意識した指導を行っていく必要がある。

荘内中学校区特別支援教育推進による「みんなの学校」づくり

すべての課題のある子どもたちの適切な成長支援のための多様な学びの場の整備



そしてChat GPT等の生成AIがすべてを変える！

- ・読書感想文も論文も自動で作成
- ・部活動の練習メニューや行事運営案も作成可能
- ・どんな文章問題も回答可能
- ・企業や行政組織も導入し、業務に活用
- ・作曲やデザインアイデアも提案

宿題の意味ある？！

夢のようなツール、日に日に進化し続け、生活に深く浸透してくる
学校教育は今のままでいいの？

14



荘内中学校の学校改革の概要を紹介します！

未来の学校づくりってどんなこと？

全教員で共通理解を徹底

社会構造の変化、働き方の変化等、予測困難な社会で新しい資質・能力の育成や新しい学びの力たちによる中学校改革が必要



そのためのGIGAスクール構想推進

学習用端末を文房具の一つとして日常使いしながら、授業改善＆業務改善、教育活動の効率化等を進めて、望ましい学校づくりを行う！

主なLDXに関連する学校改革の主な取組

長年協働学習を研究していたが定着は課題

令和2年後期生徒総会より、生徒会予算運用を生徒に委ねる。

・学校・学年行事は生徒の実行委員会が企画運営(委ねる取組へ)

・令和3年2月Chromebook搬入、使用準備

【令和3年度】(校長着任)

・令和3年4月教職員でChromebookの徹底活用と一層の「委ねる」教育転換を共通理解

・令和3年4月Chromebook持ち帰り常態化

・令和3年5月授業での徹底活用を共通理解(ただし、難しい教員は無理をしない)

・令和3年6月オンライン授業を随時開始(オンライン学習力定着を目標)

・令和3年7月生徒からの員申制度を構築(やりたい事、変えたい事を校長へ員申)

・令和3年8月生徒会から校則改定員申→協議等を経て11月第一期改定

・令和4年度に向けて校内まなびスタイルを協議

定期考査廃止、宿題の在り方、スタディサプリ、AIドリル導入の検討

※そのための教材費を徹底見直し(年間35000円を20000円に削減)

・令和4年度に向けて業務改善策を検討

教員サイト、各学級サイトの構築、Classroom運用による学習推進や業務遂行の

システムを構築

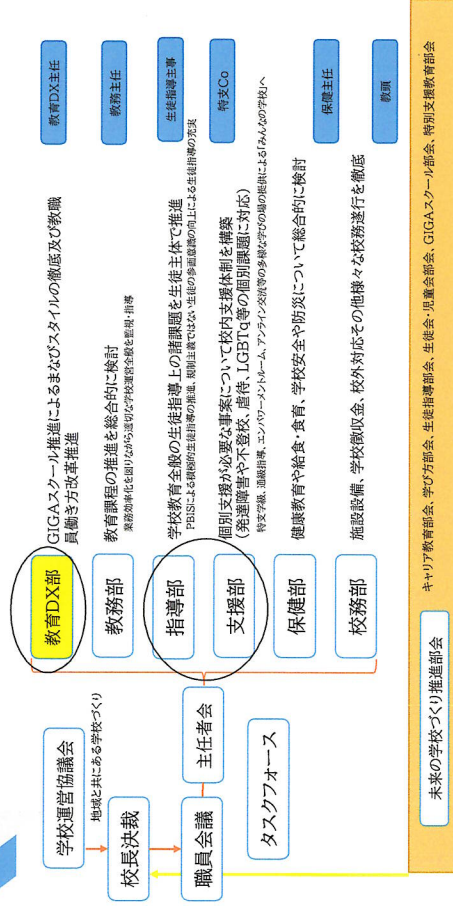
【令和4年度】

- 令和4年4月教職員でChromebookの徹底活用と一層の「委ねる」教育転換を共通理解（人事異動で三分の一が異動、再構築）
- 令和4年4月Googleの徹底活用で業務スタート
- 令和4年4月各学級、各教科、各委員会、各学プロ、各実行委員会、各部活動でClassroom運用スタート
- 「こみゅトレ」時間の創設
- 令和4年4月特別支援教育等の生徒指導支援体制の充実を推進し、「ほっとルーム」設置（登校支援室、学校独自の通級指導教室設置（県の不認可））
- 令和4年4月「宿題から先行学習へ」の推進開始（宿題内まなびスタイル（先行学習を基盤とした協働学習）の推進開始）
- 令和4年4月スタディサプリ、ミライシードAIドリル導入開始（受益者負担）
- 令和4年4月今年度の目標を次年度からの学校教育活動のパッケージ化に設定
- 授業での徹底活用を推進（先行学習課題、協働学習の中でのChromebook活用）
- 令和4年8月生徒会から校則改定具申→協議を経て11月第二期改定
- 具申書提出による主体的活動の増加（荘内Farm、各種ボランティア等）、教職員に対し、生徒に「委ねる」指導の充実を一層推進
- 業務改善のための方策を一層検討（時程の見直し、ペーパーレス化の推進、定期考査等の検討）
- 今年度の教育成果を整理し、次年度からの荘内中教育パッケージを明確にするための検討（教材費の一層の見直し）

15

学校内組織の改編で教育DX部を新設

加えて、「みんなの学校」づくりを推進するため生徒指導部と支援部を明確化



【令和5年度】

- 令和4年11月生徒会から校則の議渡具申→協議等の後令和5年3月に校則議渡
- 令和4年12月生徒会から自動販売機導入具申→ルール検討→令和5年度から導入
- 令和5年度
 - 業務改善策として部活動は業務時間内に限定開始
 - 令和5年4月文部科学省LDX推進事業委託
 - 令和3～4年度は市教委「未来の学校づくり推進モデル校」指定
 - 令和5年4月次世代型キャリア教育教材ENAGEED導入
 - 令和5年4月からパッケージ化された教育活動に沿った取組を遂行
 - 学級学年の取組・指導内容の統一、総合時間の3年間の指導計画に沿った取組、担任のローテーション徹底、生徒の主体的活動推進の一層の充実
 - 授業でのChromebook徹底活用は当たり前（不活用割合が多い＝驚き）
 - 令和5年9月記憶特化型アプリMONOXERの試行導入開始
 - 具申書提出による主体的活動の増加（荘内Farm第2期、2年生宿泊研修実施、教師が主導しない体育会や各種行事実施）
 - 令和5年11月全校こみゅトレ「ルールメイキングサミット」実施
 - 生徒会が運用する「X」配信開始（予算は生徒が検討）



学力観を変えらるべき時代



協働的な学び、個別最適な学びの実現の中でICTを効果的に活用するという考え方に活用するという考え方

「学習に効果があるから活用する」という考え方と
「学習の中で多様な使い方を経験しながら、自分に合った使い方を選択するようになる」という考え方

2つの側面があり、単に「学習成果を高めることに効果がない」から使わないとはいえないのではないのか？

とにかく徹底して活用しかない……………



荘内中の学習活動改革

ワークやプリント等の宿題は廃止
夏休みも自主学習ノート1冊埋めてくる課題等に変更

先行学習課題を提示
クラウド課題やスタディサプリ、AIドリル、授業の内容整理課題等
★学習用端末は持ち帰り、課題に取り組む。クラウド提出等

教師による一斉指導「先生がすべて教授」の授業を改革

生徒同士で教え合い話し合う協働学習



定期考査(中間・期末)の廃止

学習用端末はほぼ毎時間授業で自由に活用

単元や学習のまとまりごとにテスト実施(CBTテストも)
再チャレンジテストも実施(再評価)

2か月サイクル学習推進
学力診断テストを2か月ごとに実施

学びを促進
個別最適な学び

スタディサプリ
忘れさせない学習ツールMonoxer
AIが効率的な「定着」をサポート
Monoxerは、学習内容の理解度をAIが検知し、理解度が低い箇所を繰り返し学習させることで、記憶の定着を促します。また、学習進度に合わせて最適な学習内容を提供します。

記憶の定着に
注目したサービスです

教科書に沿って動画で解説
確認テストあり
高校入試に対応

クラウド学習プラットフォーム
EAST JORD
いつでもどこでも
学習可能

生徒の状況に応じて最適な問題を提示するAIドリル

学校は小さな社会

未来社会で強く生きていく力を育成



委ねる



自分たちの学校を自分たちで創る！

体育会開催！

生徒の実行委員会が考えた
生徒の手による体育会です！
競技内容、日程、練習計画等を生徒が考えます

合唱コンクールや学年行事もその主旨で

修学旅行

生徒の実行委員で運営！

教員は先導しただけで、その意識を改革！
教員は前に立っていない。教員が居なくてもできることが大切。

キャリア教育の観点で、生徒会活動に対する必要経費、その他の事項を生徒に委ねることが重要！

何をするにもお金が必要！

予算委員会

お金を委ねる。

年間資金60万を生徒に。
生徒同士の楽しい査定

生徒会費は生徒会へ全額委ねています。各組織への予算配分は生徒たちが予算委員会で査定して決定します。

キャリア教育の観点で、生徒会活動に対する必要経費、その他の事項を生徒に委ねることが重要！

やりたい事があれば校長に具申！



校長へ意見具申

最近の提出具申

- 校外学習に行きたい！
- 宿泊体験がしたい！
- SNS発信をしたい！
- 髪にワックスOKにしてほしい！
- 地域イベントがしたい！
- 自動販売機設置してほしい！
- 駐輪場をもっと広く使わせてほしい！
- 修学旅行にケータイ電話OKにしてほしい。



教員はアドバイザーに徹し、手をかけないことが重要



GoogleのFormsやMeet、Classroomを活用



神戸研修旅行

減災・復興探求学習＆宿泊研修
生徒からの具申により実現！



校長へ自動販売機設置の意見具申

売上げの2割を生徒会活動費に充てますよ！

市役所職員からの提案
コカ・コーラ社と市の業務提携

発展する活動

自動販売機利用ルール作成



令和5年4月
自動販売機設置

生徒会役員より
SNS発信具申書提出(7月)
(学校独自の携帯電話番号が必要)
継続する使用料をどうするのか？

【再検討を生徒に依頼】

生徒から、4月からの生徒会費への売上金、毎月10,000円程度を活用してスマホを契約することを提案

【ルールづくりを生徒に依頼】
提案の方法等を生徒が検討し、ルールを作成。
内容に問題がないことを確認し承認

環境委員会による
健康管理啓発



菜園を作りたという一人の生徒の思いが広がり、各学年からボランティア有志が集まってFarmプロジェクトが立ち上がり、活動計画や予算等も生徒たちが行いました。
(売上11,500円)

売上げと経費をシミュレーションに分析させ、厳しい現実もしっかり生徒に伝えます。
菜園設置費用80,000円(PTAの埋蔵で学校教育活動支援費で一部補償)
生徒からの提案「毎年恒例の取組とします。そうすれば、いずれ採算がとれるはず。」「じゃあ、2期ボランティア有志も募集しますか。」

思いを実現

地域貢献活動、校内ボランティアセンターの看板製作

第一期校則改定は重要
不要なルールは無くなりました。

令和3年、校則の改定委員が提出され、
全校生徒での協議が繰り返し行われました。

校則廃止、生徒会へ譲渡

令和4年後期、新生徒会長から校則譲渡の具申提出
「自分たちの生活を自分たちで守りたい」

校則譲渡
自分たちの生活を守るためです。
自分たちの生活を守るためです。
自分たちの生活を守るためです。

校則譲渡式により校則廃止
「生徒会員心得」として生徒会組織が運営していきます。今後も毎年見直しを検討していくこととします。

令和4年第2期校則改定も全校
生徒からの提案を検討し実現

全校こみねし ルールメイキングサミット

学校にあるルールについて、全学年
をシャッフルした小グループで協議

全校ルールメイキングの後、生徒会執行部で今
後の動きについて協議

各グループがJamboard&思考ツールを
活用しながら協議内容を深めていきます。

内容は生徒が考える！

それぞれの委員会から、自分たちの
活動計画をプレゼン

教育DXの推進

協働学習や自由進捗学習の中で、
学習用端末を家庭用の一つとして活用する
次世代型学習スタイルを研究

学校はICT化で 大きく変化します！

Chromebook活用で可能性は無限大



オンライン会議で異学年とも意見交流

コロナ後もオンライン授業を随時実施

アプリで学習情報を整理

体育の授業で動画で撮影して自分の動きを確認

GIGAスクール推進により、生徒の学びのかたちは大きく変わります。これは、世界の国々と肩を並べるために必要な変化であり、激変していくSociety5.0時代の生き方に対応するためのマストの取組です。毎日のChromebookの持ち帰り、は当たり前のことであり、端末を使った学習、教育活動を徹底して、GIGAスクールのその先に進まなければなりません。

2年入迎

毎日の確認

毎日の確認、CPノートを出す

① 私の記録、CPノートを出す

② 持ち物は全てロッカーへ

③ 体温は全てチェック

④ Google、HP、クラスルームを確認

⑤ 持ち物をロッカーへ

⑥ 持ち物をロッカーへ

⑦ 持ち物をロッカーへ

⑧ 持ち物をロッカーへ

⑨ 持ち物をロッカーへ

⑩ 持ち物をロッカーへ

⑪ 持ち物をロッカーへ

⑫ 持ち物をロッカーへ

⑬ 持ち物をロッカーへ

⑭ 持ち物をロッカーへ

⑮ 持ち物をロッカーへ

⑯ 持ち物をロッカーへ

⑰ 持ち物をロッカーへ

⑱ 持ち物をロッカーへ

⑲ 持ち物をロッカーへ

⑳ 持ち物をロッカーへ

㉑ 持ち物をロッカーへ

㉒ 持ち物をロッカーへ

㉓ 持ち物をロッカーへ

㉔ 持ち物をロッカーへ

㉕ 持ち物をロッカーへ

㉖ 持ち物をロッカーへ

㉗ 持ち物をロッカーへ

㉘ 持ち物をロッカーへ

㉙ 持ち物をロッカーへ

㉚ 持ち物をロッカーへ

㉛ 持ち物をロッカーへ

㉜ 持ち物をロッカーへ

㉝ 持ち物をロッカーへ

㉞ 持ち物をロッカーへ

㉟ 持ち物をロッカーへ

㊱ 持ち物をロッカーへ

㊲ 持ち物をロッカーへ

㊳ 持ち物をロッカーへ

㊴ 持ち物をロッカーへ

㊵ 持ち物をロッカーへ

㊶ 持ち物をロッカーへ

㊷ 持ち物をロッカーへ

㊸ 持ち物をロッカーへ

㊹ 持ち物をロッカーへ

㊺ 持ち物をロッカーへ

㊻ 持ち物をロッカーへ

㊼ 持ち物をロッカーへ

㊽ 持ち物をロッカーへ

㊾ 持ち物をロッカーへ

㊿ 持ち物をロッカーへ

毎日の確認

毎日の確認、CPノートを出す

① 私の記録、CPノートを出す

② 持ち物は全てロッカーへ

③ 体温は全てチェック

④ Google、HP、クラスルームを確認

⑤ 持ち物をロッカーへ

⑥ 持ち物をロッカーへ

⑦ 持ち物をロッカーへ

⑧ 持ち物をロッカーへ

⑨ 持ち物をロッカーへ

⑩ 持ち物をロッカーへ

⑪ 持ち物をロッカーへ

⑫ 持ち物をロッカーへ

⑬ 持ち物をロッカーへ

⑭ 持ち物をロッカーへ

⑮ 持ち物をロッカーへ

⑯ 持ち物をロッカーへ

⑰ 持ち物をロッカーへ

⑱ 持ち物をロッカーへ

⑲ 持ち物をロッカーへ

⑳ 持ち物をロッカーへ

㉑ 持ち物をロッカーへ

㉒ 持ち物をロッカーへ

㉓ 持ち物をロッカーへ

㉔ 持ち物をロッカーへ

㉕ 持ち物をロッカーへ

㉖ 持ち物をロッカーへ

㉗ 持ち物をロッカーへ

㉘ 持ち物をロッカーへ

㉙ 持ち物をロッカーへ

㉚ 持ち物をロッカーへ

㉛ 持ち物をロッカーへ

㉜ 持ち物をロッカーへ

㉝ 持ち物をロッカーへ

㉞ 持ち物をロッカーへ

㉟ 持ち物をロッカーへ

㊱ 持ち物をロッカーへ

㊲ 持ち物をロッカーへ

㊳ 持ち物をロッカーへ

㊴ 持ち物をロッカーへ

㊵ 持ち物をロッカーへ

㊶ 持ち物をロッカーへ

㊷ 持ち物をロッカーへ

㊸ 持ち物をロッカーへ

㊹ 持ち物をロッカーへ

㊺ 持ち物をロッカーへ

㊻ 持ち物をロッカーへ

㊼ 持ち物をロッカーへ

㊽ 持ち物をロッカーへ

㊾ 持ち物をロッカーへ

㊿ 持ち物をロッカーへ

デジタル社会で 生きる力を育成

あらゆる授業や教育活動で端末による情報共有や指示事項があるので、ICT活用能力が重要となります。

Shonai Studio

校長室に配信スタジオ設置

市内中学校の生徒会役員とのオンライン交流で情報共有

働く大人とのオンライン交流

学校外人材のオンライン講座による支援

デジタルの強みを生かす。 繋がる。

Google Classroomでは、大きな情報共有や情報、指示を提示します。

教師はこうしたクラウドでの活動の支援をきめ細やかに行い、生徒たちが相互に連携を取り合って前に進んでいくように支援します。

Google Classroom

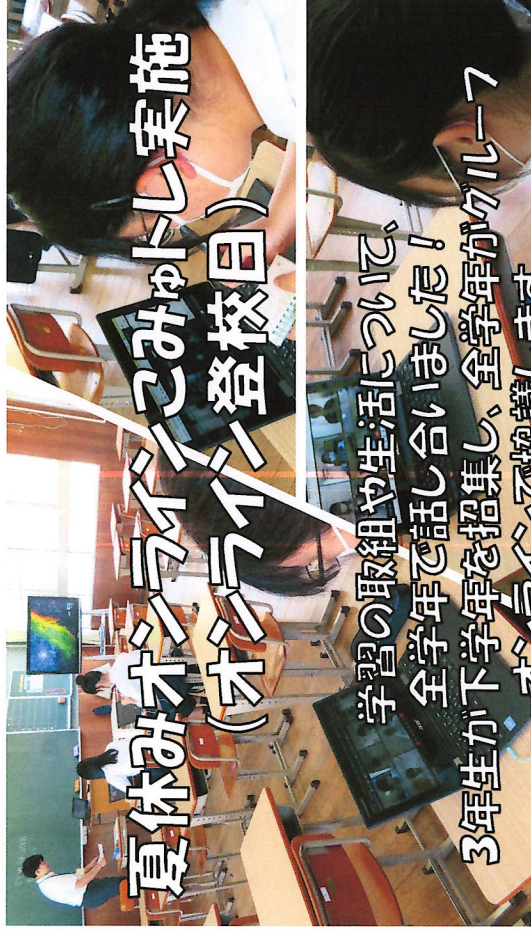
市内中学校の生徒会役員とのオンライン交流で情報共有

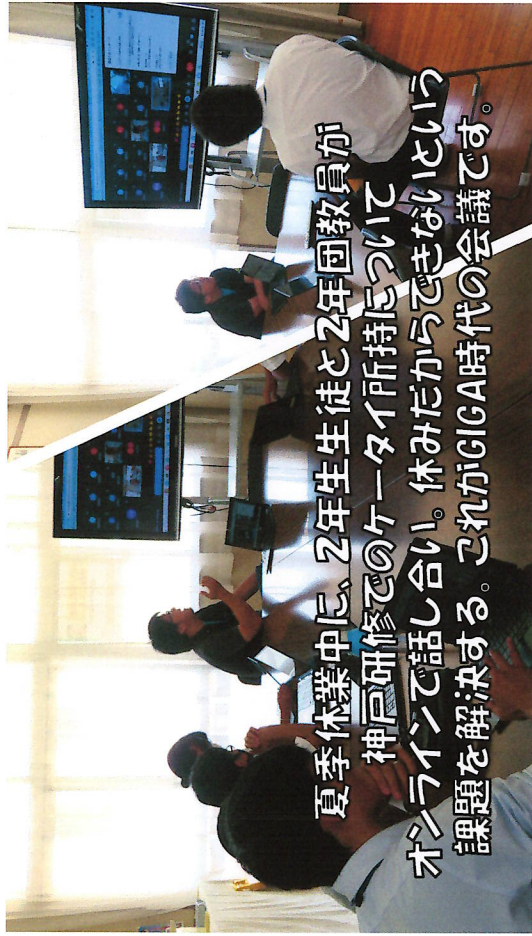
働く大人とのオンライン交流

学校外人材のオンライン講座による支援



**Google Chatを使って、
会議を開かなくても
取組を進めることが可能**





夏季休業中に、2年生生徒と2年団教員が
神戸研修でのケータイ所持について
オンラインで話し合い。休みだからできないという
課題を解決する。これがGIGA時代の会議です。



帰宅後に生徒が活動組織によりMeetで話し合う事はいいかいけないのか？それを教員が把握しなければいけないのかどうか？

- 学校の当たり前を再検討して取り組むことが大切
- 放課後招集会議のみで進める概念から脱却すべき。
- 帰宅後の生徒同士の協議
- 夏季休業中の話し合い、打ち合わせ
- 学年閉鎖、登校なし日の時のオンライン協議



来場者約2000人の
地域貢献イベント

庄内桜花祭 2023開催予定！
庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

こんな取組がなぜできるのか？
Classroom、Google Chat等での活動の効
率化、帰宅後のMeetによる生徒独自の協議



庄内よろず相談窓口
(Web上の教育相談)

庄内よろず相談窓口
(Web上の教育相談)

庄内よろず相談窓口 (校長室)

Web上で悩み相談窓口を開発しています。
寄せられた悩みについては、個々に限定のクラスルームを作り、継続して相談に
乗っています。
対面では言えないような、LGBTQに関する悩みや友人関係のトラブル、性の問題
等、様々な相談にきめ細やかに対応しています。(必要な場合は専門機関とつなが
るよう支援しています。)

各教員も必要な場合はクラスルー
ムで相談活動を行っています。
(担任ではなく、生徒のニーズに応
じた教員が対応します。)

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

庄内地区から参加！五野市を盛り上げよう！

本当のきめ細やかな支援

まっぴールーム
(エンパワーメントルーム)

集団にないかみ、おしゃべり好きな児童から教室に入りにくい生徒が様々な時間を過ごす場所です。
適正規模では数名の授業支援教員が配置されているため、運営が可能です。

特別支援学級

通常学級に在籍する生徒にはICT機器活用は非常に効果的です。通常学級と同じように活用されています。これが最良な方法に役立ちます。

通級指導教室「スマイル教室」

通常学級に在籍する自閉症スペクトラム等の支援が必要な生徒に専門的な通級による指導を行います。

通常学級でのオンライン授業提供

オンラインでグループ協働に参加も可能です。

通常学級では、オンライン授業から参加できる生徒には、オンライン授業を推奨しています。
欠席生徒、不登校生徒、各々の状況に応じてオンライン授業参加のレベルを設定しています。

中学校区一貫教育の充実で教育成果を向上

就学前の学び・社会性の芽生えを引き継いだ義務教育9年間の一貫した教育が重要

就学前園での人間力育成・集団教育保育で人間力の基礎基本を育成

保幼と小学校との連携推進
体験入学、図書館利用、交流活動等

保幼と中学校との連携推進
保育実習、環境整備ボランティア等

管理職部会

園小連携：小学校スタートカリキュラム、就学前園アプローチカリキュラム

小学校と中学校の協働による人間力育成と学力向上の推進

キャリア教育部会

生徒指導部会

GIGAスクール部会

学び方部会

生徒会・児童会部会

特別支援教育部会

中学校生活スタートプログラム：中学校生活への適切な移行

未来社会で強く生きていく力を育成

中学校区一貫教育校園として繋がる

各幼稚園は年に数回、中学校を訪問します。異年齢交流はお互いを成長させます。

各幼稚園は年に数回、中学校を訪問します。異年齢交流はお互いを成長させます。

中学校生活スタートプログラムで中学校体験

先週たちによる中学校生活のプレゼンで、中学生生活をイメージします。

荘内小6年生は、2学期と3学期に数日間、中学校生活を体験します。

異学年交流

先輩たちによる授業を受けたり、交流活動を行い、中学校生活に対する不安を和らげます。

デジタルと対面のベストミックスを留意

働き方改革は全力で進めるべき課題として推進

例えば、時程等について・ICT活用により2分以内で終了

通常時程 (6校時) ※月・金曜日	部活動の朝練習は廃止 できるだけ8:00前に出勤しない。
8:20 生徒自治活動時間	8:00～生徒登校許可(それまでは自転車置き場待機)
8:20～ 8:25 職員朝会	8:20登校完了奨励、端末チェック&朝読書
8:30～ 8:35 朝の会	健康観察、連絡等
8:45～ 9:35 1校時	
9:45～ 10:35 2校時	
10:45～ 11:35 3校時	
11:45～ 12:35 4校時	
12:35～ 13:05 給食	
13:05～ 13:25 昼休憩	
13:25～ 14:15 5校時	
14:25～ 15:15 6校時	抑除は火・木の2日間
15:15～ 15:20 下校連絡	6時間目授業担当による諸連絡(基本は端末で)
15:20～ 16:45 部活動・その他活動	最終下校16:50 部活動も16:50前で終了

PTA組織の廃止&サポーター制導入



その他の教職員の働き方改革等

- 職員会議のペーパーレス化、学年会の曜日指定(勤務時間内での実施)
- ICT活用により職員会議の短時間化
- 自動採点システムの導入
- 職員室環境の整備(スリム化、スマートワークの実現へ)
- 市全体の統一ルールの遵守(20時消灯、留守番電話設定)
- 保護者からの欠席連絡や質問事項のメール化
- 保護者あての文書配布をまなびポケットで(ペーパーレス化)
- 校内意思決定改革(企画運営委員会の廃止、主任者会を重視)
- 行事等への来賓招待廃止
- 部活動関連運送事項
- 朝練の廃止、休業日の部活動は2時間30分、複数顧問制で交互監督、長期休業中土日禁止勤務時間内の実施(16:50完全下校)
- 家庭訪問廃止
- 4月は1年生は全員ですが、2、3年生は懇談を希望する保護者のみ個人懇談実施
- 定期考査廃止。单元テスト以外は業者の学力診断テストのみの実施
- 在宅勤務によるオンライン授業承認
- 体育会は午前中で終了に短縮化、合唱コンクールは平日開催移行
- 教育相談週間を見直し、教育相談月間に
- 委員会活動等もクラウドを利用し会議は最低限に
- 「私の記録」廃止
- 宿題プリント、ワーク等の最小限化でチェック物を整理(自主的業務の見直し)

やれることはすべてやる姿勢で推進

14:30～15:30 各ブース説明

運動場側校舎

【2F】

3-①(3-②はオンライン)

①持続可能な学校現場実現を目指して

3-③(3-④はオンライン)

②未来社会で必要なコンピテンシーの育成を目指して

【3F】

2-A(2-Bはオンライン)

③主体的な学習者の育成を目指して

2-C(2-Dはオンライン)

④自走する生徒の育成を目指して

【4F】

1-A(1-Bはオンライン)

⑤きめ細やかな支援を目指して

2ターンいたします。
いずれか2ブース
お聞きください。

さあ、未来の学校の話しよう



15:45～体育館にて、記念講演です。
鳴門教育大学准教授 泰山 裕 先生

玉野市立荏内中学校

〒706-0143

岡山県玉野市木目1373番地

☎ : 0863-71-1049

Fax: 0863-71-1046



学校HP

持続可能な学校現場の実現を 目指して



校内研修の様子

働き方改革は全力で進めるべき課題として推進

例えば、時程等について・

部活動の朝練習は廃止

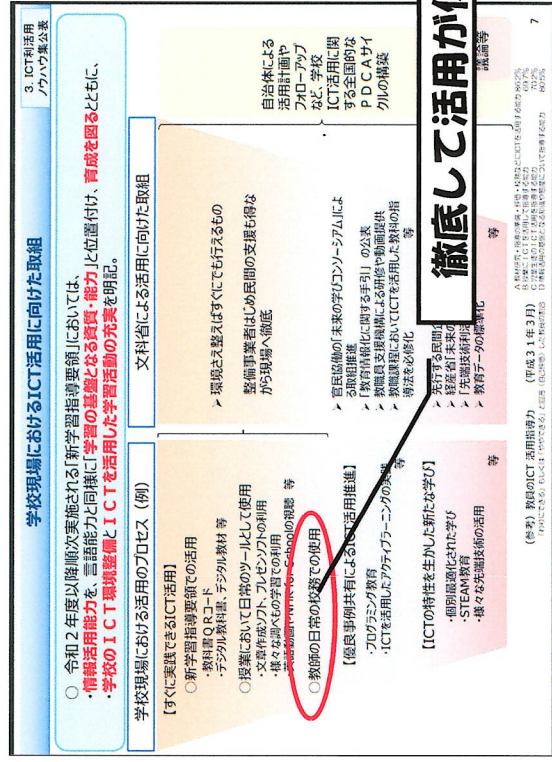
できるだけ8:00前に出勤しない。

通常時程(6校時)※月・金曜日	8:30	生徒自活活動時間	8:00～生徒登校許可(それまでは自転車置き場待機)
8:20	～	職員朝会	8:20登校完了奨励・端末チェック＆朝読書
8:30	～	8:35 朝の会	健康観察、連絡等
8:45	～	9:35 1校時	
9:45	～	10:35 2校時	
10:45	～	11:35 3校時	
11:45	～	12:35 4校時	
12:35	～	13:05 給食	
13:05	～	13:25 昼休憩	
13:25	～	14:15 5校時	
14:25	～	15:15 6校時	掃除は火・木の2日間
15:15	～	15:20 下校連絡	6時間目授業担当による諸連絡(基本は端末で)
15:20	～	16:45 部活動・その他活動	最終下校16:50 部活動も16:50前で終了

掃除は火・木の2日間

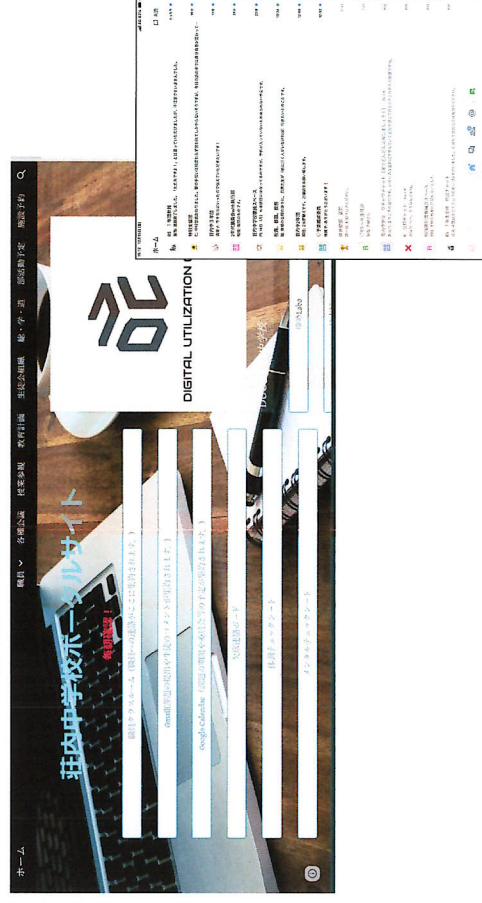
部活動も16:50前で終了

「GIGAスクール構想の実現パッケージ」より



教職員の業務遂行におけるICT活用

情報共有・整理のためのスキーム

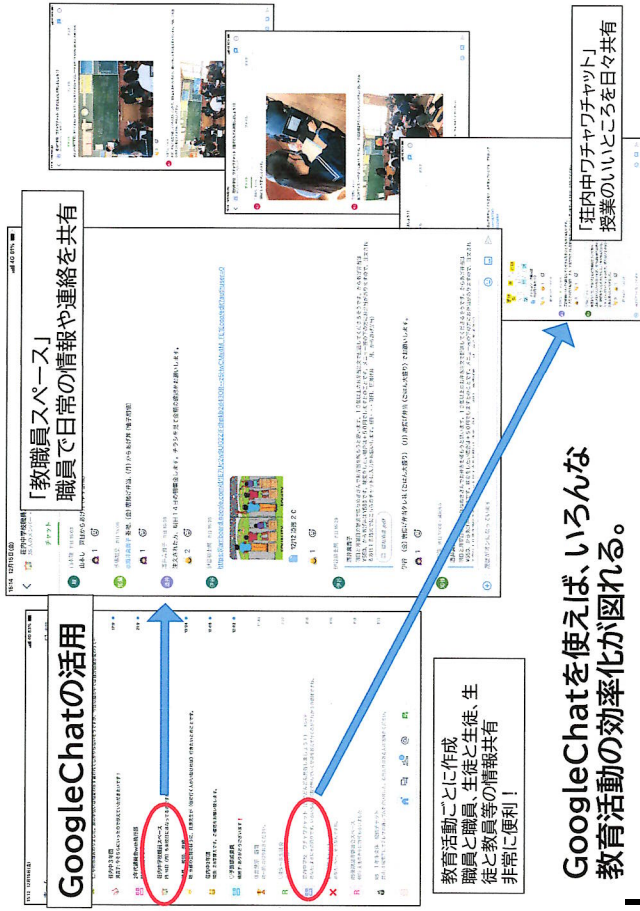


職員HPによる情報の整理 (Googleサイトで作成)

[illegible]

The screenshot shows the 'In-school' page of the 'Kobun Gakko' website. The page has a dark blue header with the school's name in Japanese and English. Below the header is a navigation menu with links to 'Home', 'About Us', 'Contact Us', and 'In-school'. The main content area is divided into three sections: 'Attendance Confirmation', 'Physical Education Management', and 'Mental Health'. The 'Attendance Confirmation' section contains a table with columns for 'Class', 'Date', and 'Status'. The 'Physical Education Management' section contains a table with columns for 'Class', 'Date', and 'Status'. The 'Mental Health' section contains a table with columns for 'Class', 'Date', and 'Status'. The page also features a sidebar with links to 'Attendance Confirmation', 'Physical Education Management', and 'Mental Health'. The main content area displays a grid of colored boxes representing different classes or subjects, with some boxes highlighted in red.

[illegible]



GoogleChatを使えば、いろんな教育活動の効率化が図れる。

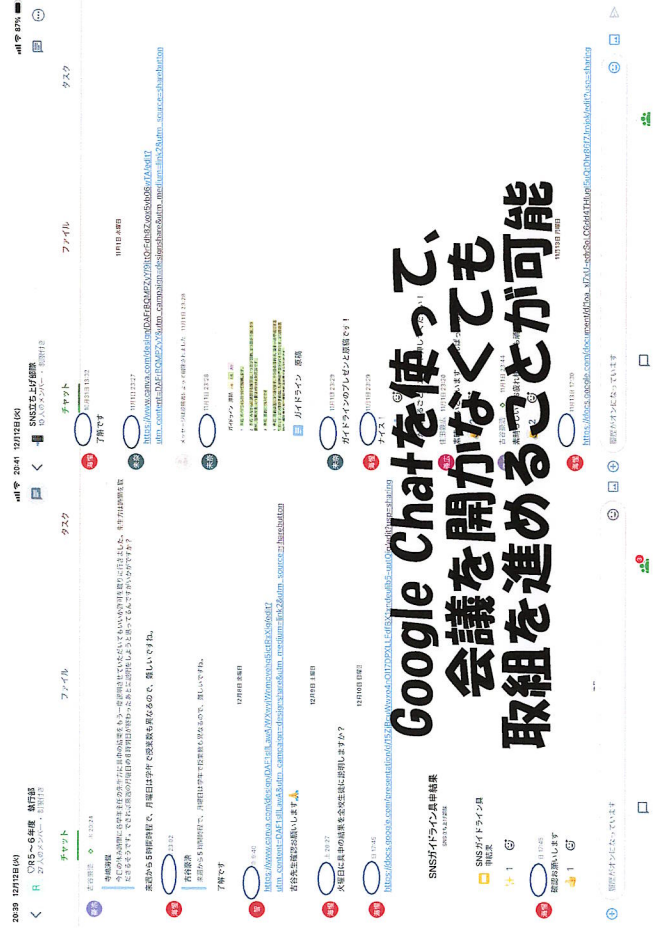
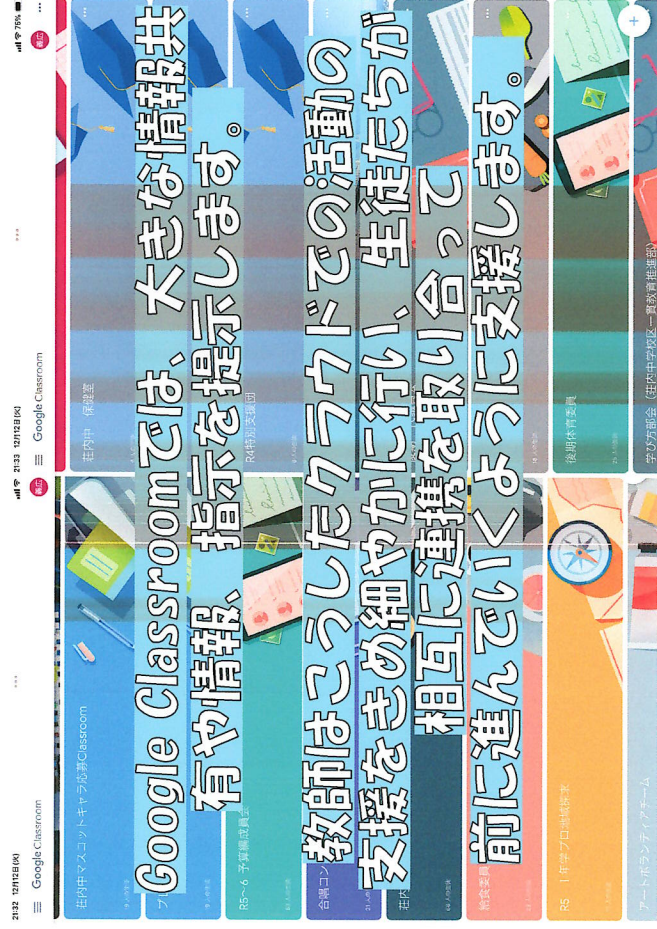
多様な取組を実現するためのICT活用

委員会活動や実行委員会活動、学プロの活動等が同時多発的に進行する場合もある。

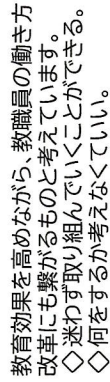
従来通りのやり方では困難かも？

しかし、Googleアプリを使用すれば！！

- 委員会活動や実行委員会活動、学プロの活動等が同時多発的に進行する場合もある。
- 従来通りのやり方では困難かも？
- しかし、Googleアプリを使用すれば！！
- 委員会活動や実行委員会活動、学プロの活動等が同時多発的に進行する場合もある。
- 従来通りのやり方では困難かも？
- しかし、Googleアプリを使用すれば！！



総合的な学習の時間、道徳、学
活をパッケージ化



オンラインで場所にとらわれない
教職員研修も可能です。
部活動を見ながら学年会に参加したい
在宅勤務で授業配信も取り組んでいます。

氏名										性別		年齢		職業		学歴		収入		資産		負債		その他					
姓	名	男	女	歳	月	職種	業種	高校	大学	月収	年収	現金	不動産	有価証券	借入金	保証金	その他	現金	不動産	有価証券	借入金	保証金	その他	現金	不動産	有価証券	借入金	保証金	その他
田中	太郎	男		35	10	会社員	製造業	高校	大学	250,000	3,000,000	1,000,000	500,000	1,000,000	2,000,000	500,000	1,000,000												
田中	花子	女		32	05	専業主婦	無業	高校	大学	0	0	500,000	1,000,000	1,000,000	0	0	0												
田中	次郎	男		10	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三郎	男		08	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四郎	男		05	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五郎	男		03	01	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六郎	男		01	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	七郎	男		11	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	八郎	男		09	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	九郎	男		07	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十郎	男		06	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十一郎	男		04	02	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十二郎	男		02	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十三郎	男		01	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十四郎	男		12	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十五郎	男		10	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十六郎	男		08	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十七郎	男		06	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十八郎	男		04	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	十九郎	男		03	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十郎	男		02	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十一郎	男		01	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十二郎	男		12	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十三郎	男		10	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十四郎	男		08	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十五郎	男		06	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十六郎	男		04	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十七郎	男		03	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十八郎	男		01	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	二十九郎	男		11	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十郎	男		09	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十一郎	男		07	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十二郎	男		05	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十三郎	男		03	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十四郎	男		01	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十五郎	男		12	01	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十六郎	男		10	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十七郎	男		08	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十八郎	男		06	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	三十九郎	男		04	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十郎	男		03	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十一郎	男		01	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十二郎	男		12	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十三郎	男		10	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十四郎	男		08	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十五郎	男		06	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十六郎	男		04	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十七郎	男		03	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十八郎	男		01	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	四十九郎	男		12	02	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十郎	男		10	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十一郎	男		08	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十二郎	男		06	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十三郎	男		04	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十四郎	男		03	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十五郎	男		01	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十六郎	男		12	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十七郎	男		10	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十八郎	男		08	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	五十九郎	男		06	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十郎	男		04	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十一郎	男		03	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十二郎	男		01	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十三郎	男		12	03	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十四郎	男		10	10	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十五郎	男		08	07	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十六郎	男		06	04	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十七郎	男		04	11	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十八郎	男		03	08	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	六十九郎	男		01	05	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	七十郎	男		12	02	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	七十一郎	男		10	12	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	七十二郎	男		08	09	小学生	無業	小学校	中学校	0	0	0	0	0	0	0	0												
田中	七十三郎	男		06	06	小学生	無業	小学校	中学校	0	0																		

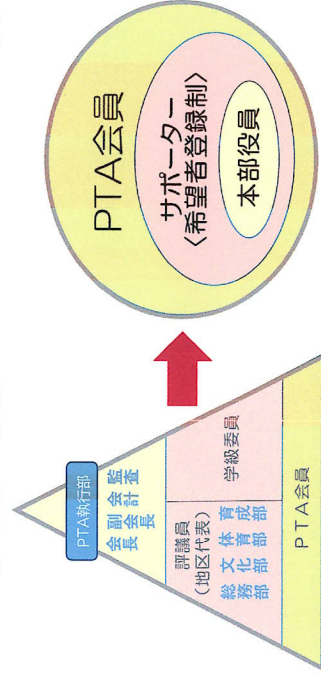
[illegible][illegible]

生徒会組織と学級組織を連動
学年・学級経営もパッケージ化

学校教育方針で生徒を育成するスチームを構築

Googleドキュメントで作成文書を統一
ゼロトラスト後に必要な統一事項
今後の文書の形はリンクあいき。

PTA組織の健全化と米一帯一帯型導入



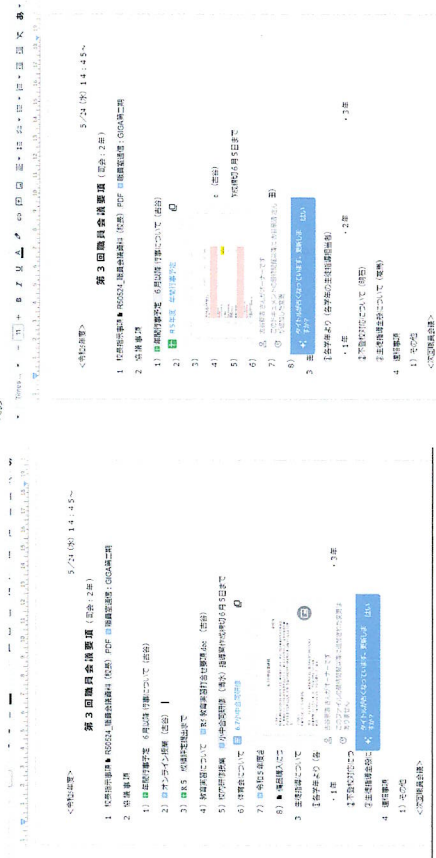
従来のPTA

莊内中のPTA



PTA組織の効率化を考え、PTA会長も含めて組織を解体し、希望者によるサポーター制度にしました。

サポーターの中で執行部を組織しています。従来通りの取組は廃止し、「今年何する？」でサポーター会議は楽しく進んでいます。



その他の教職員の働き方改革等

- 職員会議のペーパーレス化、学年会の曜日指定(勤務時間内での実施)
- ICT活用により職員会議の短時間化
- 自動採点システムの導入
- 職員室環境の整備(スリム化、スマートワークの実現へ)
- 市全体の統一ルールの遵守(20時消灯、留守番電話設定)
- 保護者からの文書連絡や質問事項のメール化
- 保護者あての文書配布をまなびポケットで(ペーパーレス化)
- 校内意思決定改革(企画運営委員会の廃止、主任者を重視)
- 行事等への来賓招待廃止
- 部活動関連事項
- 朝練の廃止、休業日の部活動は2時間30分、複数顧問制で交互監督、長期休業中土日禁止
- 勤務時間内の実施(16:50完全下校)
- 家庭訪問廃止
- 4月1日は1年生は全員ですが、2、3年生は懇談を希望する保護者のみ個人懇談実施
- 定期考査廃止。単元末テスト以外は業者の学力診断テストのみの実施
- 在宅勤務によるオンライン授業承認
- 体育会は午前中で終了に短縮化、合唱コンクールは平日開催移行
- 教育相談週間を見直し、教育相談月間に
- 委員会活動等もクラウドを利用し会議は最低限に
- 「私の記録」廃止
- 宿題プリント、ワーク等の最小限化でチェック物を整理(自主的業務の見直し)



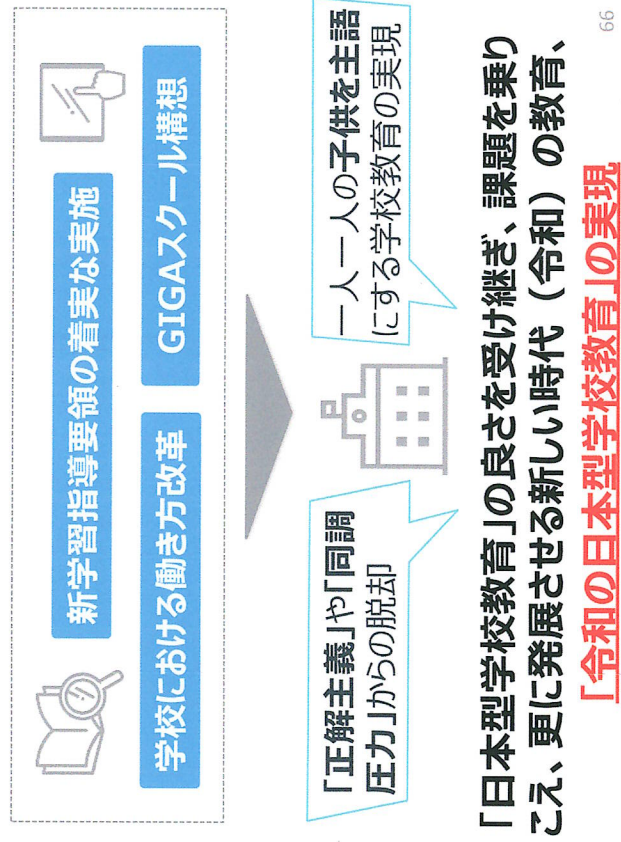
**3年間の積み上げ教育を実現し、教育成果を向上させるため+教職員の
急激な若返りの中で教育力を向上させるために。**

業務改善を進める側面と、教育成果を高める側面とで教職員の働き方改革を進めていく必要があります。

業務のICT化は非常に重要な取組であり、やがて来るゼロトラストに向けて校務を検討していかなければならないと考えています。

また、主体性育成のための「委ねる」教育推進も、軌道に乗れば業務負担軽減に繋がるものと考えています。

未来社会で必要な コンピテンシーの育成を目指して



子どもたちが生きる未来

教育現場の課題（今まであった課題がさらに増える）

- ・時代の流れ（少子化、高齢化、人口減少）
- ・日本の多文化（外国人労働者の増加、国際化の進展）
- ・少子化の進行（少子化の進行、少子化の進行）
- ・少子化の進行（少子化の進行、少子化の進行）
- ・少子化の進行（少子化の進行、少子化の進行）

日本人が抱えている課題

そしてChat GPT等の生成AIがすべてを変える！

- ・読書感想文も論文も自動で作成可能
- ・部活動の練習メニューや行事運営案も作成可能
- ・どんな文章問題も回答可能
- ・企業や行政組織も導入し、業務に活用
- ・作曲やデザインアイデアも提案

夢のようなツール、日に日に進化し続け、生活に深く浸透してくる

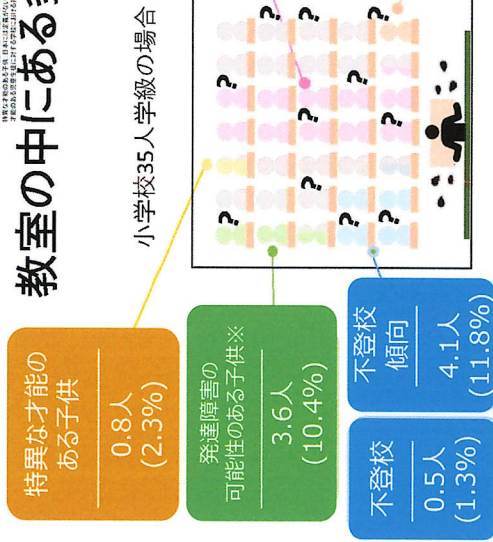
学校教育は今のままだいなの？

「何をすべきか？」

あきらかに経験した事のない新しい未来がはじまったことを
教職員で共通理解
「だから、フレキシブルに前に進んでいこう！」

教室の中にある多様性

※ 本図は、令和4年度「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果に基づき作成されたもので、実際の状況とは異なる場合があります。



「これまで通り」で
「誰一人取り残さない」は可能なのか？

※ 「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（令和4年12月）」参照。なお、本図表は、発達障害のある児童生徒の割合等を示すものではなく、発達障害のある児童生徒の教育の支援を必要とする児童生徒の状況を示している。

本校の生徒の実態による課題

- 共働き家庭がほとんどであり、小学校時代から家庭での学習に取り組む時間は非常に低い。
- 学力的には小学校時代から市内でも低い状態にある。(全国学力テストの結果による)
- 高校受験に危機感はなく、成績に無頓着な家庭が多い。
- ゲームやネットに費やす時間は小学校時代から非常に多い。
- 一戸建ての中学校区のため、市内では一番規模が大きな学校であるものの、小学校時代から固定化された人間関係で、人間関係づくりが苦手な生徒が多い。
- この集団では自分はこのくらいと考える向上心がない生徒が多い。
- 男女の垣根が低く、分け隔てなく会話ができてくる面がある。
- リーダー的な生徒と受動的に生活する生徒が分かれている。
- 過保護的な家庭が多く、生活体験が乏しく、安易な考えで行動する生徒が多い。
- 不登校傾向の生徒は5%程度である。
- 特別な支援が必要な診断を受けている生徒は10%を超える。
- 虐待の見守り家庭等の割合は5.7%程度である。



令和の日本型教育の実現を目指す取組



実態に応じたコンピテンシーの育成

教育DX実現と新しいまなびの方の実現を前提とした、学力実態と生徒指導上の課題のある地方の公立中学校での実施可能な取組を検討

「こみゅトレ」(Society5.0時代のコミュニケーション能力を育成)

【「こみゅトレ」の目標】

今後の社会では、対面だけでなくオンラインも含めてハイブリッドなシチュエーションによる対人関係構築能力が必要であるため、意図的にコミュニケーション能力育成のための取組を推進し、望ましい次世代型コミュニケーション能力の育成を推進する。

- (1) アナログコミュニケーション
 - ① 1対1のコミュニケーション
 - ② 面接型コミュニケーション
 - ③ 小グループでのコミュニケーション
 - ④ 学級単位でのコミュニケーション
 - ⑤ 通話コミュニケーション
- (2) デジタルコミュニケーション
 - ① オンライン授業参加によるコミュニケーション
 - ② オンライン面談コミュニケーション
 - ③ オンライン小グループコミュニケーション
- (3) 文字によるコミュニケーション
 - ① メールコミュニケーション
 - ② SNSコミュニケーション



異学年こみゅトレ



オンラインこみゅトレ

未来社会で必要なコンピテンシーの育成を目指した学校独自のスキーム構築

- ① 「こみゅトレ」(コミュニケーション・トレーニングのコンテンツ)
- ② 「まなトレ」(まなび方トレーニングのコンテンツ)
- ③ 「ねっとレ」(メディアリテラシー、情報モラル教育のコンテンツ)
- ④ 「ENAGEED」次世代型人材育成教材の導入

生徒の実態による課題に加え、教職員集団の急激な若返りによる学力の低下状況を踏まえたスキームづくり。

学活や総合的な学習の時間、各教科の授業の中で実施

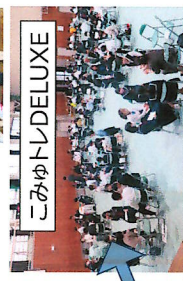
厳しい学校現場の状況の中で、最大限の教育効果を実現するのがプロ集団の責務

年度初めの想定「こみゅトレ」

- | | |
|-----|--|
| 4月 | 【1・3年】テーマ:3年生が新入生にMeet等の使い方を指導
【全学年】テーマ:生徒会会員規則、ルールの在り方について協議 |
| 5月 | 【全学年】テーマ「中学生生活を充実させるために」(オンライン実施) |
| 7月 | 【3年】IPU訪問:大学生との交流活動実施、テーマ:進路決定の在り方 |
| 9月 | 【全学年】テーマ:自主学習の取組について
【全学年】テーマ:学校生活をより良くするために |
| 10月 | 【3年生】小学6年生とのこみゅトレ実施 テーマ:中学校生活について
【2年生】社会人とのこみゅトレ実施 テーマ:幸せに生きるために
学校運営協議会委員が立案 |
| 11月 | 【2年生】小学6年生とのこみゅトレ実施 テーマ:先輩って何?
【全学年】全校こみゅトレ実施 テーマ:進路決定の在り方について
【3年生】面接トレーニング |
| 1月 | 【全学年】テーマ:受験に向かう自主勉強について |



こみゅトレDELUXE



全校「ルールメイキング・サミット」(こみゅトレ)の実施

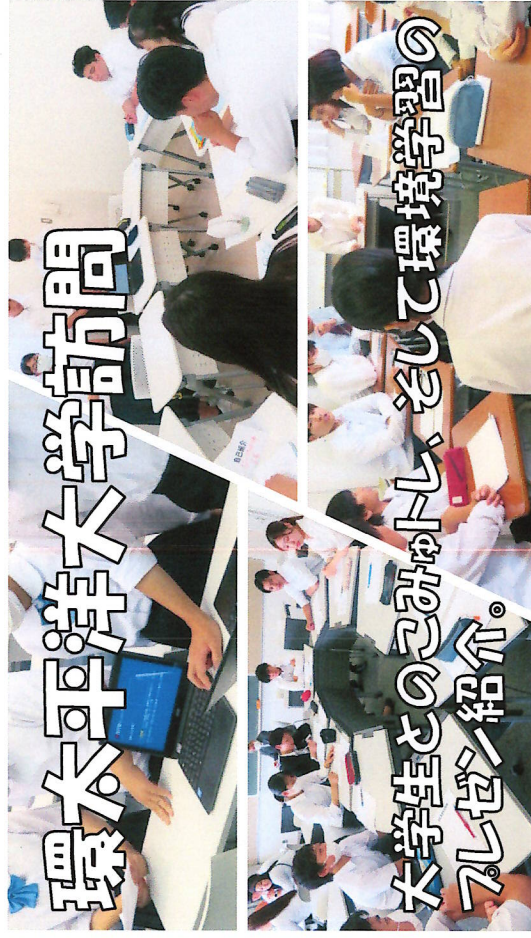


「教育は生きものの」状況に応じてフレキシブルに取組が変わっていく事を受け入れる学校でありたい。



こみゃとしDELUXE

大人サホーター60名と2年生生徒がグループで楽しく話し合いを行いました。
(実施主体は学校運営協議会委員の方々)



環太平洋大学訪問

大学生とのこみゃとし、そして環境学習のプレゼン紹介。



校則廃止、生徒会へ譲渡

令和3年、校則の改定が提出され、全校生徒での協議が繰り返されました。

第一期校則改定は実現
不要なルールは無くまりました。

校則譲渡
自分たちの生活を自分たちで守りたい

令和4年後期、新生徒会から校則譲渡の再申請提出
「自分たちの生活を自分たちで守りたい」

校則譲渡式により校則廃止
「生徒会役員会」として生徒会組織が運営していきます。今後も毎年見直しを検討していくこととしよう。

「校則で決まっているから、自分で考えてTPOをわきまえた行動身
なりをすすめます。生徒たちが自分たちで決めたルールだから、自分たち
で責任をもって守ろう」という意識にならなければなりません。教員は放置す
るのでは決してなく、「みんなですべて決めたルールだから守るべきじゃない？考え
て」指導を続けます。



全校こみゃとし ルールメイキング・サミット

どんな学校にしたいか、全校で協議

学校にあるルールについて、全学年
をシャッフルした小グループで協議

全校ルールメイキングの後、生徒会執行部で今
後の動きについて協議

本校では校則を生徒会へ譲渡しているため、
ルールを我々が事として考える場が必要

各グループがIamboardを活用しながら協議内容を深めています。

それぞれの委員会から、自分たちの
活動計画をプレゼン

「まなトレ」(Society5.0時代の生涯にわたって学び続ける力を育成)

- 時間設定
学活や総合的な学習の時間及び各授業内で、1単位時間に拘らず行っていくもの。
- 目的
- ①なぜ授業で協働的な学びをするのかを理解する。
 - ②自分をアップデートする方法を理解する。
 - ③学習のPDCAサイクルを進める方法を理解する。
 - ④多様な学びを進める方法を知り、自分に最適な方法を選択するスキルを身に付ける。



4月当初
オンライン全校まなトレとして、協働学習の理念、協働的な学びの大切さを教授

中学校の発達段階で できることを検討

なぜこのような学習活動をしているのか？
協働学習で学習をすすめる意義・必要性
自由進度学習で学習を進める意義・必要性
まなびを進めるには限りない方法があり、選択するのは自分
生徒が自覚しないと成果は高められない。
それを伝え続けるのが「まなトレ」であり、
生涯にわたって、必要なコンピテンシーの育成

想定以上に中学生のでき
ることはICT活用により広
がっていく。



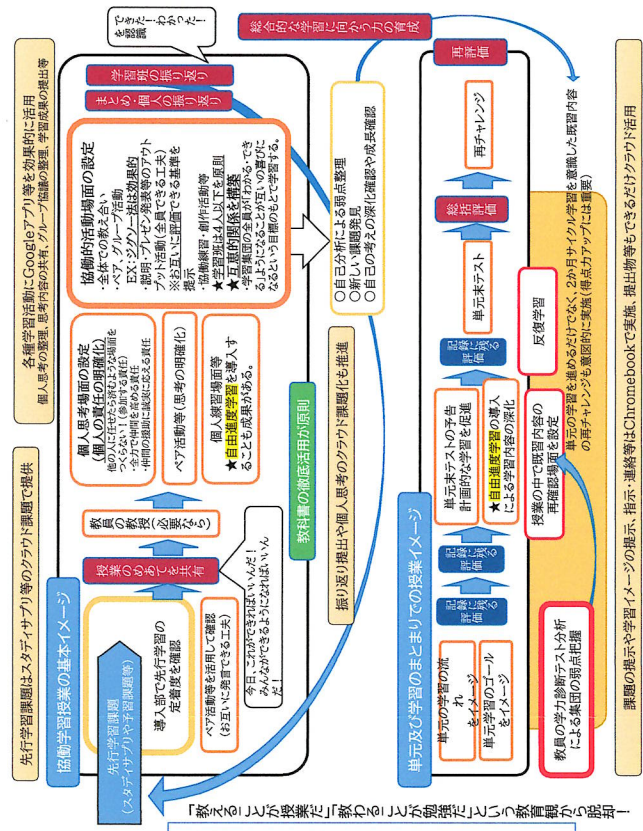
まなび方は一つではなく、様々な方法がある。
生徒は各授業等を通じて多様なまなび方、多様なその整理方
法、アウトプットの様々な方法を身につけ、将来はその時、そ
の課題、状況に応じて取り組む方法のBESTを選択していく
必要がある。

その力を育成するのが「まなトレ」のカテゴリーだと認識して
取り組んでいる。

オンライン「こみゆトレ」の一場面
教師からの指示がなくても、オンライン交流を進め
る中で、ミニ手帳でメモしながら進めていく生徒。
このような状況を実現していきたい。



学習活動の選択肢を教授し、
自身で選択する学習を各教科
で実現していく事が必要と思
われる。こうした事を伝えたい。



「まなトレ」が授業に「教えることが勉強だ」という教員観を脱却し、
生徒が「まなトレ」を通じて「まなぶことが勉強だ」という教員観を実現することを目指す。

「ねっとレ」

(情報モラル教育 & メディアリテラシー推進)

教育DXによる学校教育のデジタル化では情報モラル教育(情報社会で適正な活動を行うための基になる考え方と態度を育成)とメディアリテラシー教育(必要な情報を効果的に探し出し、見つけた情報を適切に評価・活用できる能力を育成)を効果的に推進する必要がある。本校では年間をとおして「ねっとレ」(ネット関連トレーニング)として効果的に取り組むこととしている。

【「ねっとレ」の目標】

学習用端末等の機器の適切な使用や破損回避能力を身に付けながら、情報社会の中で、人権・知的財産権など自他の権利を尊重し、自分の行動に責任をもち、犯罪被害を含む危険回避能力を身に付け、健康との関わりにも留意して、適正に生きていくための情報活用能力を育成する。

中学時代は間違えるもの、やすぎに流れるもの、ネット活用に自己制限ができないもの、であることを認識し、「だから使用制限する」ではなく、適切な利用について指導していく事が生徒の真の成長に繋がる。

「禁止項目の増大は、適切な教育成果を生まない」という教職員の共通理解は重要

36

ねっとレ時間以外で各教科等の時間で意識すべき観点
「マルチモーダルテキスト」を読む読解力育成

We b上のデジタルテキストは進化を続け、文字情報だけでなく絵や写真、イラスト、図などの画像や動画、音楽など混成型テキスト(マルチモーダルテキスト)になっている。
Society5.0時代の真の読解力とは、こうした傾向のある問題が出題されている。各教科ではそうした次世代型の教育の在るべき姿を認識し、授業においては、マルチモーダルテキストを活用しながら読解力を高める取組を進める中で「ねっとレ」が目指す目標実現を意識した指導を行っていく必要がある。

- 「ねっとレ」という特設時間での指導(ネット上の危険性、ネット活用の利便性の押さえ、生成AI活用方法の指導等)
- 端末破損防止月間での取組
- 各教科による多様なクラウド課題の提示による多様な学習活動の提示
- 学校内での多様な教育活動でのChatやmeet等の活用による実践

★Chat GPT等の生成AIの適切な活用についても取り組んでいく
(今年度も実施したが、不十分)

- ④(全学年)学習用端末使用上のルール(生徒会役員及び学校ルールの徹底)
- ⑤(全学年)端末破損防止指導の徹底(事例も示しながら具体的に指導)
- ⑥(全学年)家庭内ルールを作成させ提出
- ⑦(1・3年)「にみゆトレ」実施で3年生が新入生にMeet等の使い方を指導
- ⑧(1・2年)「ネット情報の適切な評価・活用」を考える」
- ⑨(1・2年)「ネット上の危険回避について考える」
- ⑩(全学年)Googleドライブのデータ管理等について指導
- ⑪(全学年)端末破損防止徹底月間(全学年の学習プロで対策を企画)
- ⑫(1年)「オンライン会議の留意点を考える」
- ⑬(全学年)オンライン「にみゆトレ」実施(テーマ「中学生生活を充実させるために」)
- ⑭(全学年)「ネット上の人権尊重について考える」
- ⑮(全学年)クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)
- ⑯(全学年)オンライン授業実施
- ⑰(全学年)「ネット依存等、健康について考える」(アンケート結果も活用)
- ⑱(全学年)長期休業中の端末使用ルールを自己決定させる。
- ⑲(全学年)ネット検索した結果等を取りまとめて分析整理する課題とする。
- ⑳(全学年)「情報システムの特性(アルゴリズム等)を考える」
- ㉑(全学年)「情報システムの特性(アルゴリズム等)を考える」
- ㉒(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉓(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉔(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉕(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉖(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉗(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉘(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉙(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉚(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉛(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉜(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉝(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉞(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㉟(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊱(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊲(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊳(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊴(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊵(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊶(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊷(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊸(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊹(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊺(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊻(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊼(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊽(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊾(全学年)「著作権・ネット人権について考える」
- ㊿(全学年)「著作権・ネット人権について考える」



オンライン「にみゆトレ」と運動しながら生きた「ねっとレ」を進める中で指導を展開する
俯瞰教育が重要

項目		1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	
1. 学習用端末使用上のルール(生徒会役員及び学校ルールの徹底)																																
2. 端末破損防止指導の徹底(事例も示しながら具体的に指導)																																
3. 家庭内ルールを作成させ提出																																
4. 「にみゆトレ」実施で3年生が新入生にMeet等の使い方を指導																																
5. 「ネット情報の適切な評価・活用」を考える」																																
6. 「ネット上の危険回避について考える」																																
7. Googleドライブのデータ管理等について指導																																
8. 端末破損防止徹底月間(全学年の学習プロで対策を企画)																																
9. 「オンライン会議の留意点を考える」																																
10. オンライン「にみゆトレ」実施(テーマ「中学生生活を充実させるために」)																																
11. 「ネット上の人権尊重について考える」																																
12. クロームブック活用アンケート実施(活用実態を把握する)																																
13. オンライン授業実施																																
14. 「ネット依存等、健康について考える」(アンケート結果も活用)																																
15. 長期休業中の端末使用ルールを自己決定させる。																																
16. ネット検索した結果等を取りまとめて分析整理する課題とする。																																
17. 「情報システムの特性(アルゴリズム等)を考える」																																
18. 「情報システムの特性(アルゴリズム等)を考える」																																
19. 「著作権・ネット人権について考える」																																
20. 「著作権・ネット人権について考える」																																
21. 「著作権・ネット人権について考える」																																
22. 「著作権・ネット人権について考える」																																
23. 「著作権・ネット人権について考える」																																
24. 「著作権・ネット人権について考える」																																
25. 「著作権・ネット人権について考える」																																
26. 「著作権・ネット人権について考える」																																
27. 「著作権・ネット人権について考える」																																
28. 「著作権・ネット人権について考える」																																
29. 「著作権・ネット人権について考える」																																
30. 「著作権・ネット人権について考える」																																

中学校二・三年生(2017年)のLCAクラス生徒が作成する情報活用能力

2023年度に作成した9年間の情報活用能力指導計画

庄内小と共同作成した9年間の情報活用能力指導計画



人の可能性を本気で拓く教育を、世界へ広げる

次世代型キャリア教育教材
教員が苦手とする分野を補填

次世代型キャリア教育

ENGAGED



MISSION 「カッコいい大人を増やす」

技術による露尻端の出組みやサービーズが進化する中で、「人に対していいな」と思える瞬間」を増やします。自分の可能性を理解したかつこいい大人を増やすことで、経済成長に貢献し、この国に次回目の成長期をつくり出す

VISION 「一人ひとりが、自分の生き方に誇りを持てる社会へ」

これから大人になる子供も、今、社会で活躍している大人も、
「一人ひとりが自分の可能性を理解し、
自分の生き方に誇りを持つ社会」に必要の機運をつくり出す。
「ロボットが通用化し、人が担う役割が小さく変わらう」としている中で、
「ロボットの社会が人に取替わる」を身にしみての怖れを感じます。

未来社会で必要なコンピテンシーの育成を目指した 学校独自のスキーム構築

- ①「こみゅトレ」(コミュニケーション・トレーニングのコンテンツ)
- ②「まなトレ」(まなび方トレーニングのコンテンツ)
- ③「ねっトレ」(メディアリテラシー、情報モラル教育のコンテンツ)
- ④「ENAGEED」次世代型人材育成教材の導入

そして望ましいコンピテンシー育成に必要な
のは、アナログやデジタルに関わらない異学
年交流活動による人間力育成です。

やはり、中学校区一貫教育校園の取組による就学前の学びの芽生え・社会性の芽生えからの9年間の義務教育段階の系統的な教育推進によるコンピテンシー育成が重要です。

激変していく社会を理解してはいるものの、学校教職員は就職活動で苦労した経験もなく、「0から1を生み出す業務」に取り組んだ経験もない中で若返りが激しい学校現場では、一層次世代型のキャリア教育を進めることが困難な状況があります。

その弱点を補填する教材として導入を決定したのがENAGEEDです。

本教材実施により、教員の負担軽減と教育成果の向上の両立が図られるとともに、教員の社会変化に対応する教育内容の実践力育成に成果があるものと考えています。

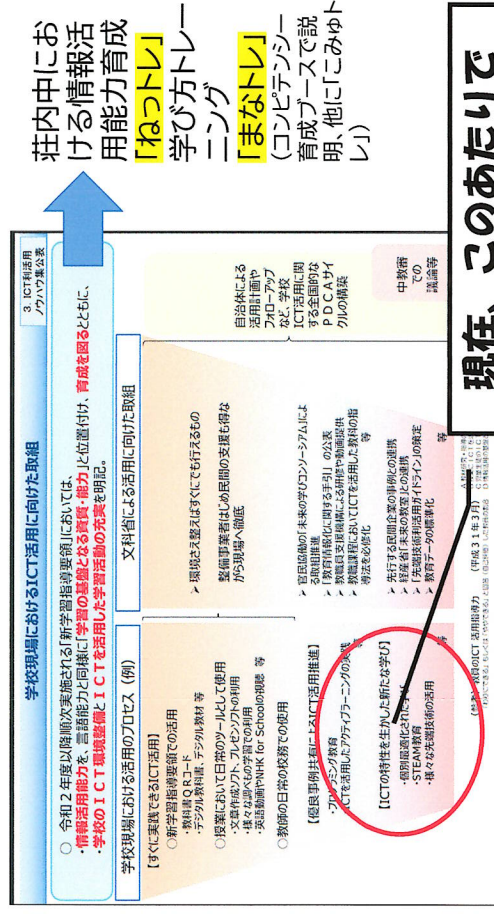


主体的な学習者の育成を目指して



38

「GIGAスクール構想の実現パッケージ」より



「教師が教授」から

主体的な学習者へ

学力観を変えるべき時代

子どもたちが望む未来

そしてChat GPT等の生成AIがすべてを変える！

- ・読書感想文も論文も自動で作成可能
- ・部活動の練習メニューや行事運営案も作成可能
- ・どんな文章問題も回答可能
- ・企業や行政組織も導入し、業務に活用
- ・作曲やデザインアイデアも提案

夢のようないツール、日に日に進化し、解け、生活に深く浸透してくる

学校教育は今のままだい？

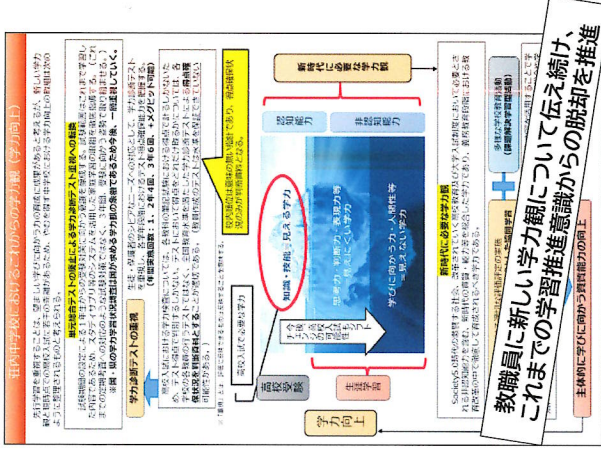
あきらかに経験した事のない新しい未来がはじまったことを
 教職員で共通理解
 「だから、フレキシブルに前に進んでいこう！」

端末活用でのトラブル、不適切な活用等の不安⇒
「学校は間違えた経験、失敗した経験で成長する学び舎だ！」(間違えるのは子どもの特権)

「使わない」「ためらう」という選択肢はない

- 令和3年5月、全家庭での端末活用環境を整え、6月から持ち帰りを常態化させて各教科クラウド課題へ移行を開始(Wi-Fi環境の無い家庭には市教委がルーターを貸与)
 ※令和4年以降では、小学校時代から保護者に対して家庭にWi-Fi環境を整えていくよう伝え続け、今年度は2軒のみ
- 令和4年4月から、宿題から先行学習課題、定期考査廃止から単元末テスト重視へ、紙課題からクラウド課題重視へ移行スタディサプリ・ミライシードを学校独自で導入
- 令和5年4月から、「まなトレ」、2か月サイクル学習導入

■ 荘内中の学習活動改革



協同学習心得 ～みんなで学んでアツサート～

- (1) 授業で自分が何をすべきか理解しよう。
- (2) グループ活動に参加する前に自分の考えを持とう。
- (3) グループの中で自分の役割を果たし、仲間の成長のために助け合おう。
- (4) 人の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしよう。
- (5) 授業後に自分がどんな学習に取り組むべきか考えよう。

授業には先行学習してから参加！授業も生徒が主役！



[illegible]

●「私の記録」(毎日のメモノート)を廃止して、Chromebookによる情報管理の姿勢を生徒に定着させている最中です。

指示待ちのほうが楽なので、なかなか定着できない生徒もおり、継続指導が必要。

受動的情報取得&學習者

「黙っていれば、先生が伝えてくれる。ポーっとしていても連絡黒板に必要な情報は係が書いてくれる。学習の計画も先生が示してくれる。言う通りやっていけば学習活動が進む。」

理想を目指して指導を継続

主体的情报取得&学习者

「必要」な情報は自分なりの方法で整理する。示された単元計画等で計画的に学習を進める。2か月サイクル学習で自己調整しながら挑戦し続ける。」

現在校内にあるClassroomは80あまり

各教科からのクラウド課題を提示



AIが勉強法をサポート
忘れさせない学習ツール Monoxer

AIが効果的な「定着」をサポート
AIが得意な「定着」をサポート
AIが得意な「定着」をサポート
AIが得意な「定着」をサポート

個別最適な学びを提供

教科書に沿って動画で解説
確認テストあり
高校入試に対応

22

学習の進度や理解度に応じて、最適な学習内容を提供。AIが学習者の理解度を把握し、最適な学習内容を提供。

記憶の定着に注目したサービスです

生徒の状況に応じて最適な問題を提示するAIドリル

タブレット学習プラットフォーム EISTOOND

ペーパードリルは、問題が基本。AIドリルは、問題が基本。AIドリルは、問題が基本。AIドリルは、問題が基本。

学習の進度や理解度に応じて、最適な学習内容を提供。AIが学習者の理解度を把握し、最適な学習内容を提供。

1 先行学習活動を重視(メタ認知能力の醸成)

先行学習(各単元の学習内容に応じて設定)

- (1)授業前の教師が指定した内容を予習する学習
- (2)単元全体の学習内容を予習する学習
- (3)生徒が独自に取り組み予習学習

【先行学習の留意点】

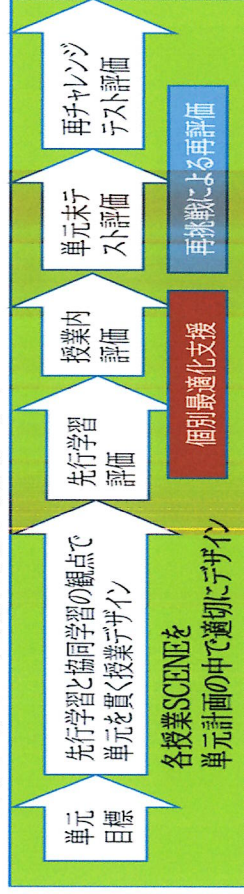
- (1)教科書を読解する活動を重視して提示
 - ①教科書を読解する力は、自学自習の基本的且つ重要な能力であることを重視して指導を徹底
- ②単元評価に反映するため、教科書を読解した学習履歴を残す課題設定を工夫
- (2)学習用端末を活用するクラウド学習課題を提示
 - ①教科書読解後にスタディサプリでの動画視聴及び確認テストによる自己調整を行うとともに、ミラージュによる自学自習の深化活動を奨励
 - (3)チャレンジノートによる自学自習学習の整理(ノート及びデータの個別選択)
 - ①先行学習活動により習得した学習内容の整理や疑問点、協働で話したい事項等をチャレンジノートにまとめる活動を奨励
 - ②独自に考案したデータによるまとめ活動も奨励

2 協働学習による授業デザイン

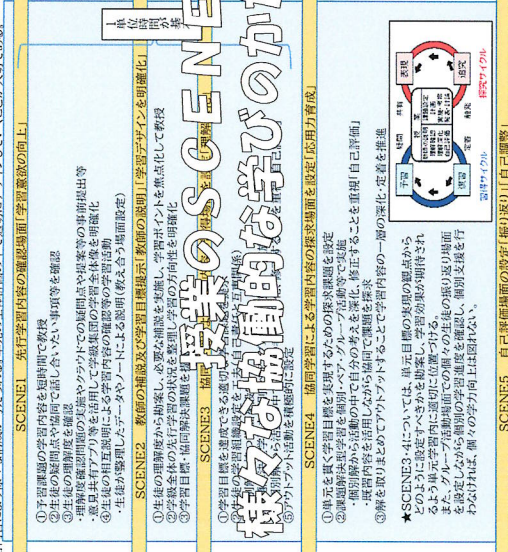
協働学習(生徒に提示する項目)

- (1)授業で自分が何をすべきか理解しよう。
- (2)グループ活動に参加する前に自分の考えを持とう。
- (3)グループの中で自分の役割を果たし、仲間の成長のために助け合おう。
- (4)人の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしよう。
- (5)授業後に自分がどんな学習に取り組むべきか考えよう。

こうした単元の流れの中で自由進度学習は、自己調整等の必要に応じて位置づけていくと効果的なのではないか？



各授業SCENEは、1単位時間(1時間)で設定される場合と、2単位時間(2時間)で設定される場合とがある。授業の進め方は、単元計画の単位時間に応じて設定されている。



SCENE5 自己評価の振り返り(自己評価)

- ①予習課題実施後の自己評価シートを提出し、自己評価シートを基に自己評価を行う。
- ②自己評価シートを基に自己評価を行う。
- ③自己評価シートを基に自己評価を行う。

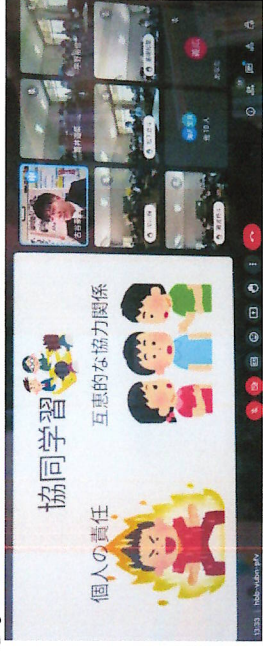
まなトレの時間(まなび方トレーニング)とは？

時間設定

学活や総合的な学習の時間及び各授業内で1単位時間というわけではなく行っていくもの。

目的

- ①なぜ授業で協働的な学びをするのかを理解する。
- ②自分をアップデートする方法を理解する。
- ③学習のPDCAサイクルを進める方法を理解する。
- ④多様な学びを進める方法を知り、自分に最適な方法を選択していくスキルを身に付ける。



今年度、LDX推進事業の中で、令和の日本型教育に おける望まれる新しい学びをさらに検討

泰山 裕 先生からの御助言をまとめ、教員で共通理解

- 1 令和時代の求められる授業改善
 - ①一斉指導からの脱却、「主体的学習者の育成」へのシフトチェンジ
 - ②協働的な学びと個別最適化学習のベストマッチ
- 2 これからの授業づくりの視点
 - ①生徒が主役になっているか。生徒の頭がアクティブになっているか。
 - ②すべての生徒にとって最適であるか。「一人一人違う」という前提に
なっているか。
 - ③思考スキルが身につく支援があり、思考ツールを選択して学びを深めているか。
 - ④深く学ぶための支援があり、思考スキル、ツールは学びを深めるため
に有効に活用できているか。
 - ⑤学びに向かう力につながるものか。生徒は何を決めるのか。
 - ⑥もう一度、同じような場面に出会ったら今度は先生なしで取り組める
か。
 - ⑦生徒が教科特性をふまえたまなび方を理解しており、教師の指示なしで自ら学びに
向かえているか。

自由進度学習の導入に挑戦

- ①課題設定が重要であり、「できたから時間が空いた」
という生徒は出ない。
- ②評価基準の明確化(S、A、B)
 - Bに到達していなかったらCなので不要
 - Bは全員が到達してほしい授業の水準課題
 - 評価基準に合わせた課題の段階的提示
 - Bまで行ったら終わりではなくアップデートしてい
く意欲で
- ③課題テーマごとにグループを組む工夫が必要、一人
で取り組みたい生徒は個で
- ④教師は支援が必要な生徒を支援することが重要

3 これからの授業づくりのポイント

- ①児童生徒が学習過程を理解していること
今日の授業の目標と流れが自然であること
学習は課題設定、情報収集、整理分析、まとめ表現という
プロセスである
- ②学習過程のうち、選択できる範囲を増やしていく
やり方を教えて、できるようにしたら手を離して新しい
ことを教える
なぜこのような活動をしているかを説明できること
学習方法の選択肢を増やすための端末・情報活用能力
- ③個別最適に友達の学び方を学ぶ、先生は支援が必要な生
徒を見つけて支援する
支援が必要な生徒に重点的に支援しているか
友達の学習過程を参照しながら学ぶための端末・情報活
用能力



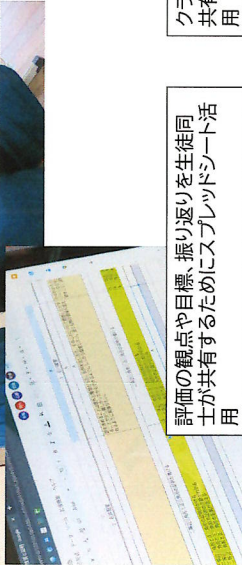
自由進度学習に挑戦

協働的な学びを進める生徒は協働学習時と同様の姿が見
られた。
一人がいい生徒は一人で。グループで相談したい生徒はグ
ループで。デジタルがいい生徒はデジタル、アナログがい
い生徒はアナログで。学習活動の選択が見られた。



自由進捗学習に挑戦

考え方や学習状況を整理したり、他の生徒の様子を見て参考にしたりするためのGoogle Jamboardの活用



評価の観点や目標、振り返りを生徒同士が共有するためにスプレッドシート活用

クラス全体にHelpを出したり、溶き方を共有したりするためのGoogle Chat活用

「学習の手引き」の作成 生徒との共有

パワーマンズ課題：友達の意見を読んで自分の考えを深め、それを整理して意見文を書き、英語で伝え合う。

S：自分の考えを深め、その思考の過程や根拠を整理し相手にわかりやすく英語で明確に述べることができる。

A：自分の考えを深め、その思考の過程や根拠を、英語で述べることができる。

B：自分の考えを深め、それを理由と共に英語で述べることができる。

【日常的な話題や社会的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合うこと。】

＜先行課題＞「ハゲワシと少女」の教材を読み、ケビンの行動に対する自分の考えを英語で書く。

＜学習過程＞

課題の設定：自ら選んだ友達の見解を読んで自分の考えを深め、それを整理して英語で書く。情報の収集：教科書の本文、先行課題で書いたそれぞれの意見。

整理・分析：意見を書いた本人の話を聞いたり周りの人と話し合ったりして自分の考えと比較し、伝えたい内容を整理する。

まとめ・表現：班内でそれぞれの意見文を発表した後、クラス全体で発表して欲しい人を、生徒が推薦する。

新しい令和のまなび実現に向けて

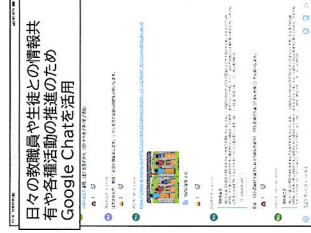
①自由進捗学習のメリット・デメリットを整理

- ・学びに向かう気持ちがなければ、仲の良いもの同士でお茶らけて終わる。
- ・協働学習が身に付いていないと、好き嫌いが前面に出て、人間関係が広まらない。
- ・教師の課題設定や評価基準が不適切な場合、学びの向上の成果が得られにくい。
- ・うまくやっていると集団としての高まりが得られず、はじめもつかなくなる。

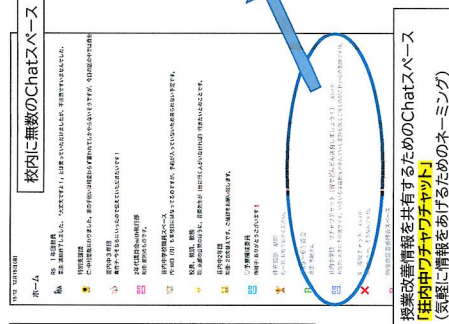
②新しい荘内まなびスタイルの構築に向けて

- ・単元計画の中で、教授する場合にも必要
- ・協働学習を進めるべき学習内容もある
- ・自由進捗学習を効果的に単元計画に落とし込む？

効果的に授業改善情報を日々共有し、新しいまなびの構築を推進するために



一貫教育校である荘内小学校にも同じChatスペースがあります。毎日どんな授業実践情報が気軽に上がっています。こうした中で、望むべきこれらの授業をみんなで検討しています。



授業改善情報を共有するためのChatスペース
(気軽に情報をあげるためのネーミング)

自分が授業でやってみた内容や人の授業を見てよかったところなどを気軽に上げています。



自走する生徒の育成を目指して



未来社会で強く生きていく力を育成

学校は小さな社会

自分たちの学校を自分たちで創る！

社会の仕組みや課題を知り、お金の仕組みを知り、リアルな思考で新しい生方を考える力を育成

予測困難な社会の中で柔軟な発想で新しい価値観を生み出すこととする力の育成

未来の学校づくりを目指す

荘内中学校の取組を紹介します！

教師からの指示ではなく、自分たちで自分たちの生活を作っていくという意識を醸成

生徒会構成員として自分たちの生活を自分たちの力で充実させようとする類似社会体験を行わせることで社会は自分たちの力で変えられる意識を醸成

学校を小さな社会とみなして生徒会会員としての参画意識を醸成(シナズンとしての意識醸成)

生徒会組織の活用

「学プロ」活動の実

各種行事実行委員会の充実

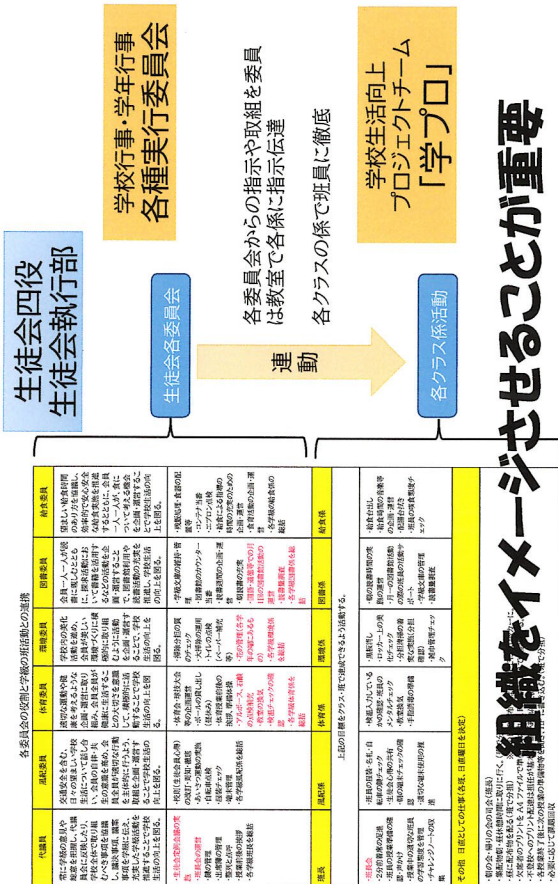
生徒自治活動の運営

- ・行政組織としての取組を意識して実践(委員会活動、予算委員会等)
- ・各組織の予算編成活動の充実による現実的な金銭感覚の醸成
- ・地域の自治会組織、NPO法人等の位置づけを意識して活動推進
- ・ボランティア意識の向上 ※学プロ:学校生活向上プロジェクトチーム
- ・地域の自治会組織、NPO法人等の位置づけを意識して活動推進
- ・学校学年行事を自分事として捉えて積極的に参画する=社会参画
- ・朝の自治活動時間等の運営による参画意識の向上、就労活動能力育成
- ・生徒会規則遵守への指導の充実による法遵守意識の育成

生徒会会員としての学校教育活動への参画意識、会員が決めたルールを会員として守る意識の醸成

社会構造を意識させ社会の構成員としての望ましい資質能力を育成

生徒自治を徹底し、シチズンシップを育成



教師がしーるを敷かない！

体育会開催！

生徒の実行委員会が考えた
生徒の手による体育会です！

合唱コンクールや学年行事もその主旨で



教師が先導しない！

修学旅行

生徒の実行委員で運営！



生徒が学校を創る。

それができることを体感。

体育会実行委員会が体育会種目や運営方法を検討し、教員に対してプランゼンで決定します。当日の運営も実行委員会が生徒会各委員会を使って行います。(ビデオ撮影、動画編集、Web発信も生徒が行います)

キャリア教育の観点で、生徒会活動に対する必要経費、その他の事項を生徒に委ねることが重要！

やりたい事があれば校長に具申！



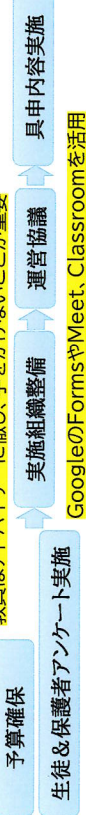
校長へ意見具申

最近の提出具申

- 校外学習に行きたい！
- 宿泊体験がしたい！
- SNS発信をしたい！
- 髪にワックスOKにしてほしい！
- 地域イベントがしたい！
- 自動販売機設置してほしい！
- 駐輪場をもっと広く使わせてほしい！
- 修学旅行にケータイ電話OKにしてほしい。



教員はアドバイザーに徹し、手をかけないことが重要



生徒&保護者アンケート実施

GoogleのFormsやMeet、Classroomを活用

キャリア教育の観点で、生徒会活動に対する必要経費、その他の事項を生徒に委ねることが重要！

何をするにもお金が必要！



予算委員会

生徒会費は生徒会へ全額委ねています。各組織への予算配分は生徒たちが予算委員会で査定して決定します。

生徒会費は生徒会へ全額委ねています。各組織への予算配分は生徒たちが予算委員会で査定して決定します。

神戸研修旅行



被災・復興学習&宿泊研修 生徒からの具申により実現！



校長へ自動販売機設置の意見具申

売り上げの2割を生徒会活動費に充当しますよ！

市役所職員からの提案
コカ・コーラ社と市の業務提携

自動販売機設置のメリット・デメリットの協議

自動販売機利用ルール作成

生徒会役員より
SNS発信具申書提出(7月)
(学校独自の携帯電話番号が必要)
継続する使用料をどうするのか？

【再検討を生徒に依頼】

生徒から、4月からの生徒会費への売上金、毎月10,000円程度を活用して携帯電話を契約することを提案

【ルールづくりを生徒に依頼】
起草の方法等を生徒が検討し、ルールを作成。
内容に問題がないことを確認し承認

令和5年4月
自動販売機設置

環境委員会による
健康管理啓発



思いを実現

売上げと経費をシビアに分析させ、厳しい現実もしっかり生徒に伝えます。
菜園設置費用80,000円(PITAの理解で学校教育活動支援費で一部補填)
 生徒からの提案「毎年恒例の取組とします。そうすれば、いずれ採算かとれるはず。」
 「じゃあ、2期ボランティア有志も募集しますか。」

菜園を作りたいたいという一人の生徒の思いが広がり、各学年からボランティア有志が集まってFarmプロジェクトが立ち上がりました。活動計画や予算等も生徒たちが行いました。
 (売上11,500円)

地域貢献活動、庄内ボランティアセンターの看板製作



全校こみゃーし ルールメイキング・サミット



学校にあるルールについて、全学年をシャッフルした小グループで協議

全校ルールメイキングの後、生徒会執行部で今後の動きについて協議

それぞれの委員会から、自分たちの活動計画をプレゼン

各グループがJamboardを活用しながら協議内容を深めていきます。



校則廃止、生徒会へ譲渡

第一期校則改定は整理不要なルールは無くなりました。

令和3年、校則の改定案が提出され、全校生徒での協議が繰り返されました。

令和4年第2期校則改定も全校生徒からの提案を検討し実現

校則協議

令和4年後期、新生徒会案から校則譲渡の具申提出「自分たちの生活を自分たちで守りたい」

「校則で決まっているから」ではなく、自分で考えてTPOをわきまえた行動身なりをすべきです。生徒たちが自分たちで決めたルールだから、自分たちで責任をもつて守ろう」という意識にならなければなりません。教員は放置するのではなく、「みんなが決めたルールだから守るべきじゃない？ 考えて」と指導を続けます。

校則譲渡式により校則廃止「生徒会員心得」として生徒会組織が運営していきます。今後も毎年見直しを検討していくこととします。

今年度のルールメイキング・サミット (生徒会員心得、生徒会会員規則の見直し)



【後期生徒総会】

- ①体操服の上衣を入れるか入れないか問題
- ②SNS運用ルールの決定

【人権集会】

- ③委員会は各クラスから男女各1名を選出は必要？ 不要？
- 工夫して乗り越えられる区別はいらないのではないのか？



「学校で何か取組を行うためには、昼休みや放課後に招集時間を取って会議を開き、協議させて実施していく。」

この当たり前をクラウドに置き換えると思う以上に効率的です。

自走をはじめれば、生徒たちが独自に帰宅後にMeetで会議をはじめます。



自走する生徒の育成を目指して

- 学校内を社会構成を実感させる組織を構築し、イメージさせる。
 - 生徒が主役＝学校を創るのは自分たちであるという意識を醸成
 - 社会におけるやりたい事の実現＝予算や計画、周囲の理解が必要を実感させることが重要
 - 学校教育活動の中でいろんな生徒がいろんな立場で取組を推進する状況を整理・支援するのがICT活用
- ★従来の取組推進からの柔軟な脱却による効果的活動推進が可能

きめ細やかな支援を目指して



本校の生徒の実態による課題

- 共働き家庭がほとんどであり、小学校時代から家庭での学習に取り組む時間は非常に低い。
- 学力的には小学校時代から市内でも低い状態にある。(全国学力の結果による)
- 高校受験に危機感はなく、成績に無頓着な家庭が多い。
- ゲームやネットに費やす時間は小学校時代から非常に多い。
- 一・二・三の中学校区のため、市内では一番規模が大きな学校であるものの、小学校時代から固定化された人間関係で、人間関係づくりが苦手な生徒が多い。
- この集団では自分はこのくらいと考える向上心がない生徒が多い。
- 男女の垣根が低く、分け隔てなく会話ができる面がある。
- リーダー的な生徒と受け身で生活する生徒が分かれている。
- 過保護的な家庭が多く、生活体験が乏しく、安易な考えで行動する生徒が多い。
- 不登校傾向の生徒は5%程度である。
- 特別な支援が必要な診断を受けている生徒は10%を超える。
- 虐待の見守り家庭等の割合は5.7%程度である。

教育DX実現と新しいまなびの実現を前提とした、学力実態と生徒指導上の課題のある地方の公立中学校での実施可能な取組を検討

令和の日本型教育の実現を目指す取組

実態に応じた適切な支援を行うみんなの学校づくりを推進

教室の中にある多様性

特異な才能のある子供

0.8人
(2.3%)

発達障害の可能性のある子供※

3.6人
(10.4%)

不登校

0.5人
(1.3%)

不登校傾向

4.1人
(11.8%)

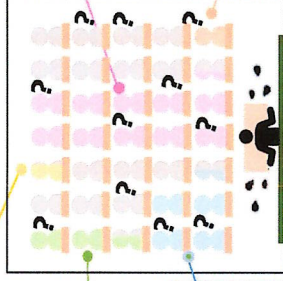
家にある本の冊数が少なく学力の低い傾向が見られる子供

10.4人
(29.8%)

日本語を家であまり話さない子供

1.0人
(2.9%)

小学校35人学級の場合



「これまで通り」で「誰一人取り残さない」は可能なのか？

※「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に創する調査（令和4年12月）」参照。なお、本結果は、発達障害のある児童生徒の割合を示すものではなく、発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒の状況を示している。

学校は小さな社会

未来社会で強く生きていく力を育成



自分たちの学校を自分たちで創る！

本校の教育方針は生徒に生徒会会員として自治を認識させながら、様々な活動等を「委ねる」ところで、何事も我が事として考え、主体的に行動する生徒を育成することです。



そうした行動がとれるようになるためには、そもそも自分身を支える自己肯定感の向上・安定が必要です。

自己肯定感の向上・安定を、様々な課題を抱える生徒たちへの適切な支援に取り組むことにより、支援が必要な生徒の、こみゆトレ等によるコンピテンシー育成や主体性育成教育が成果を上げるようになるかと考えています。

PBIS(ポジティブ行動支援)

お互いの良い行動を可視化することで、生徒の自己肯定感を高める。



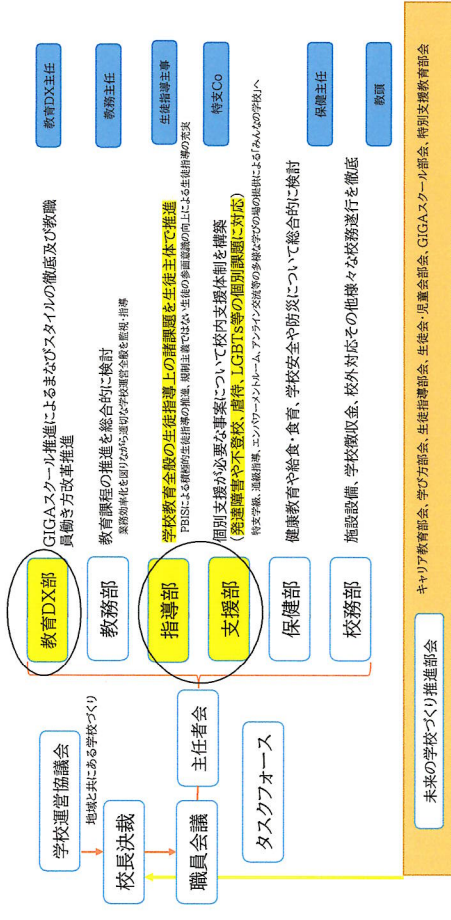
- ◎PBIS理論に基づいた指導の充実
Good Behaviorカードの取組(善い行いをしたらカードを渡し、10枚で校長室表彰、学校玄関にも掲示)
自己肯定感の育成を目的に。

褒めて育てることは大前提ですが、いかに効果的にほめるかが重要です。生徒に委ねる教育を進める中で、生徒自治活動を推進する観点での良い行動を認めていく事が大切です。

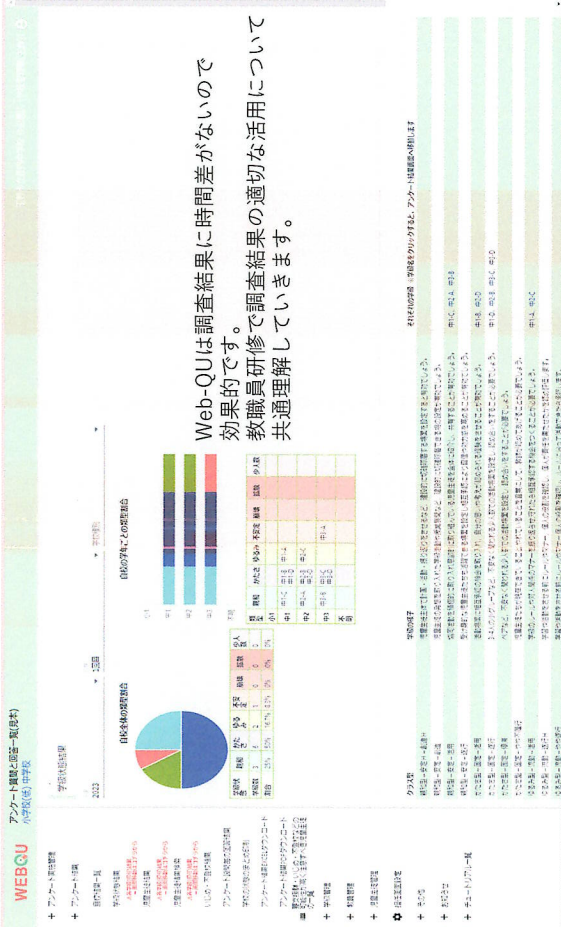
- ◎各種分析調査の実施による計画な生徒実態分析による生徒指導支援の充実
Web-QUの実施
SEHS調査の試験導入

荘内中学校では学校内組織の改編で教育DX部を新設

加えて、「みんなの学校」づくりを推進するため生徒指導部と支援部を明確化

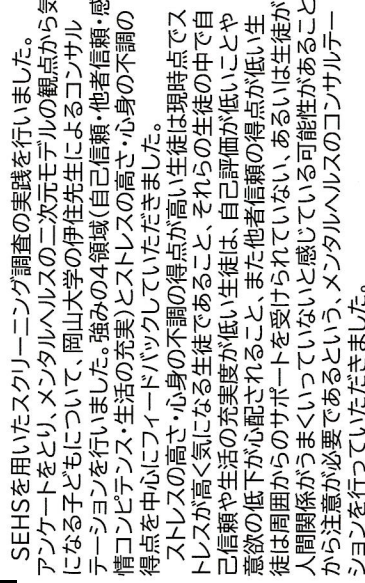


Web-QUについては、御存じのとおり学級状況や学級集団の中でのこの状況を把握して指導に生かします。



Web-QUは調査結果に時間差がないので効果的です。
教職員研修で調査結果の適切な活用について共通理解していきます。

①教育委員会・②学校管理(主幹)・③教員の
3種別(4種別)の区分がなされている。

☐ 以後表示させない

試験導入して生徒のストレス実態を調査

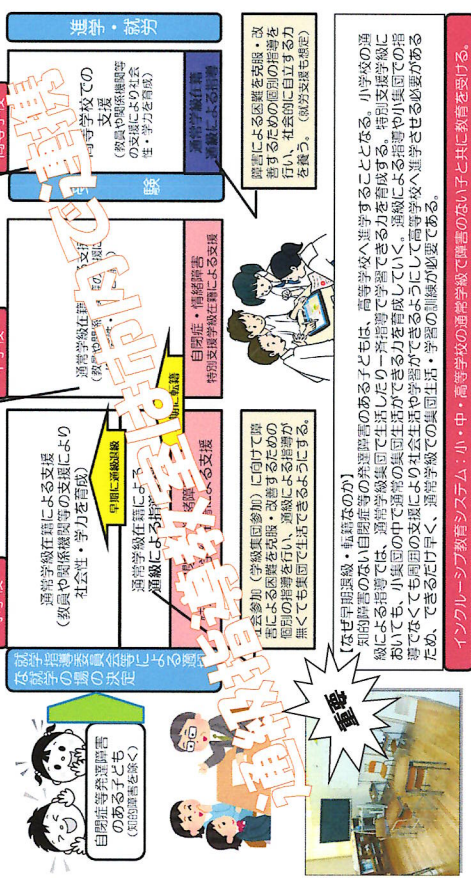
SEHS(Social Emotional Health Survey:社会面・感情面の健康調査)は、学校の児童生徒全員のメンタルヘルススクリーニングのために用いられるアンケートです。子どもの学校生活の満足度や学校への親和性、学業成績と関連することが示されています。

コンサルテーションにより、意外な生徒がストレスを抱えていたり、体制に課題があるなどの結果を教えてくださいました。

玉野市の発達障害者等支援ネットワーク体制 ～生涯を通じた支援のかたち～



玉野市は小中高校で 通級指導教室設置



庄内中学校の特別支援教育

庄内中学校の特別支援教育推進の基本的な考え方

生徒はかけがえのない存在であり、一人一人のよさや可能性、特性などを大切にする教育を進める。そのため、「多様な学びの場」を設置する環境整備とともに、一人一人の課題に対して個別最適な支援を計画的に行う積極的な支援を行う校内支援体制の充実及び校外関係機関等との連携推進、その支援体制を適切に運用する教職員の支援スキルの向上が必要である。

【特別支援教育推進の観点】

- ①多様な学びの場の環境整備
- ②校内支援体制の充実
- ③教職員研修の充実

①多様な学びの場の整備

インクルーシブ教育システムの理念を遂行するため、多様な生徒の特性に応じた学びの場を整備するが、それぞれの場の効果的な運用を確立しなければ効果は上がらない。

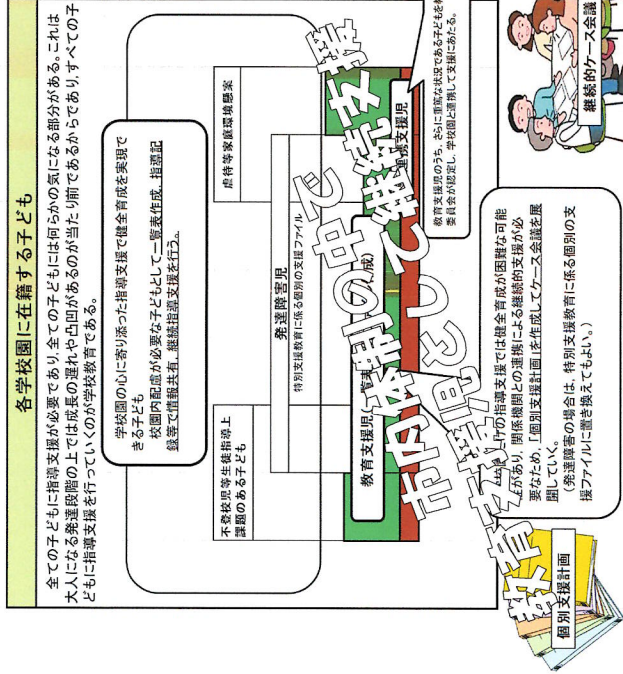
①～⑥の適切な就学の場を設定するのは、校内特別支援教育委員会であり、個別の支援計画(指導計画)作成により、支援のPDCAサイクルを運用することが基本である。

- ①通常学級での特別支援教育: 集団の中での個別支援、授業のユニバーサルデザイン、個別懇談等
- ②特別支援学級での支援: 自立活動(SST等)が要、学習指導における自立、早期退級への支援(自・情)
- ③通級による指導: 個別の教育課程編成、自立活動等による自己肯定感の醸成、SST実施
- ④まなびの教室: 学習障害等への取り出し指導
- ⑤登校支援教室: 集団不適応への支援、個別学習指導、SST実施
- ⑥放課後登校、オンライン登校: 集団適応への支援、個別学習指導、SST実施

玉野市の 教育支援体制

令和5年度の本校
の教育支援児は45
名

その教育支援ファイ
ルを基に適切な支
援のPDCAサイク
ルを展開していく事
が求められていま
す。



庄内中学校の特別支援教育

②校内支援体制の充実(特別支援教育推進委員会の取組)

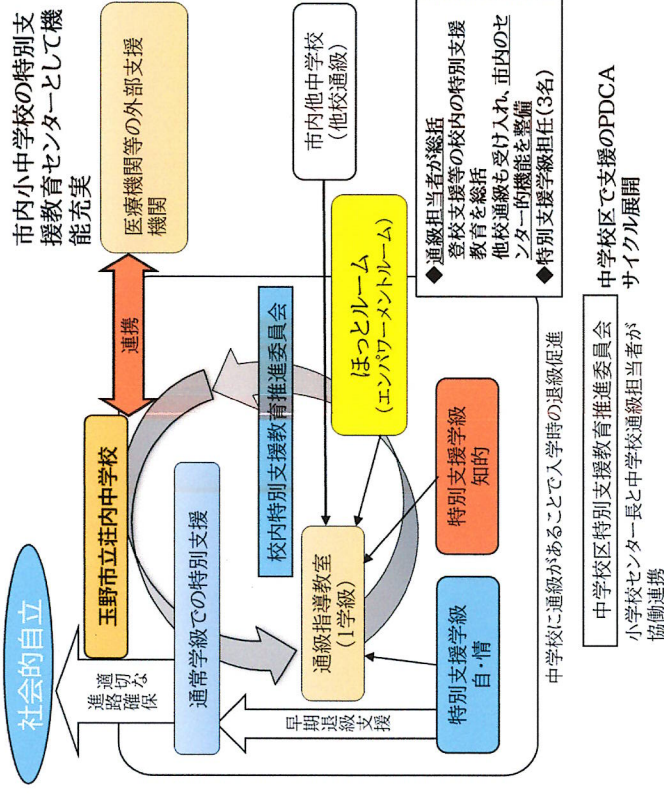
特別支援教育コーディネーターが中心となり、小学校や関係機関と連携しながら個別の最適な支援の推進や適切な就学の場の検討を行うとともに、教職員研修を推進してスキルアップを図る。



庄内中特別支援教育推進の大きな目的

- ◇ 自閉・情緒学級の生徒は、学力保障をメインとせず、集団適応を進め、早期に退級させなければならない。(本来は中学校入学前に退級させていくべき。)
- ◇ 高等学校入学は可能であっても、多くが継続できない実態(県全体の課題)
- ◇ そのための通級による指導の開始

扶肉中学校GZ井一



通級指導教室設置への道のり
(市内初の中学校通級指導教室)

令和3年度末に通級指導教室設置を要望
多様な学びの場を整備していくため。特学からの早
期退級を実現していくため。

令和4年度、学校独自に通級指導教室設置

※その気になれば学校独自に
通級による指導は可能
令和5年度、県教委から正式認可

未来社会で強く生きていく力を育成

庄内よろず相談窓口 (Web上の教育相談)



各教員も必要な場合はクラスルームで相談活動を行っています。
(担任ではなく、生徒のニーズに応じた教員が対応します。)

Web上で悩み相談窓口を開設しています。
寄せられた悩みについては、個々に限定のクラスルームを作り、継続して相談に乗っています。
対面では言えないような、LGBTQに関する悩みや友人関係のトラブル、性の問題等、様々な相談にきめ細やかに対応しています。(必要な場合は専門機関とつながるように支援しています。)



中学校現場では多様な学びの場を整備していくことで様々な支援が必要な生徒の助けになります。

庄内中学校

- 通常学級における個別支援
- 特別支援学級における支援
- 通級指導教室における支援
- エンパワーメントルーム「ほっとルーム」による支援
- オンライン授業による支援

連携

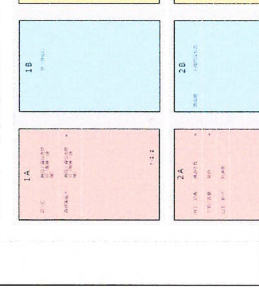
- 玉野市内の支援体制
- 保健師との連携
 - SSW、SSSTとの連携
 - 通級指導教室担当者会
 - 特別支援教育ネットワーク連絡協議会

庄内小学校

きめ細やかな支援を目指して

- PBISの理念に基づく生徒指導の推進
お互いの良い行動を可視化することで、生徒の自己肯定感を高める。
- Web-QU, SEHS調査による生徒の実態把握からの適切な支援
- 市内特別支援教育推進体制を活用した支援
- 教育支援計画による支援PDCAサイクルを展開
- 義務教育9年間の切れ目ない支援体制の充実
- 多様な学びの場の整備による多角的な対応

庄内中 欠席連絡ボード (RS)



通常学級でのオンライン授業提供



オンラインでグループ協
議に参加も可能です。

保護者からの欠席連絡はGoogle formsで送信されます。それが一覧で示されます。オンライン授業を希望する生徒はOになっているので、クラスの係の生徒が配信をしていきます。

特別支援学級



特別支援学級に在籍する生徒にはICT機器活用は非常に効果的です。通常学級と同じように活用されています。これが就労時にも役に立ちます。

講演者紹介

泰山 裕（たいざん ゆう）

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 准教授



1 講演者紹介

初等中等教育現場を対象に思考力育成のための学習環境について研究されています。授業において児童・生徒に期待する「思考」を思考スキルという観点から具体化することで、授業がどのように変わるのか、それが児童・生徒にどのような影響を与えるのかについて研究を進められています。

また、児童・生徒の思考を補助するためのシンキングツールや ICT などのツールの活用方法や、思考を捉え評価するための視点や方法についても研究しておられます。

それぞれの研究を学校現場で活用していくよう、実践現場と連携を密にいただいています。

今年度、本校の文部科学省の LDX スクール事業委託により、荘内中学校区全体の校内研修での指導助言や授業改善 Chat 内での助言等に御支援いただいています。

記念講演

テーマ「NEXT GIGA への挑戦」

This image shows a single page of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

参加申込時にいただいた主な質問等にお答えします。

事前質問	回答
教育DX推進を行ったことで、逆に大変になってしまったことなどがあれば、参考までに教えていただきたいです。	情報の整理はこれまでの学校現場以上に必要になりますので、教職員も個別最適な情報整理術を身につける必要があります。
職員間の情報共有の方法とタイミングが知りたいです。	GoogleアプリのClassroomやChatでタイムリーに行っています。一日中ログイン状態で業務を進めています。
最初の立ち上げや、教職員・生徒に浸透させるまでの経緯や仕組み(しかけ)なども教えていただけるとありがたいです。	冊子等を見ていただければと思います。
使用制限があるアプリなどを聞きたい。自治体によってcanva.google chatなどを使用禁止にしているのと伺っておりますので、その辺のところをお教え願いたいです。	岡山県内でもChat禁止といった自治体が多いと聞いています。基本的に禁止されているものはありません。禁止している自治体の考えはトラブル回避だと思っています。その考えでは何も始まらないと考えています。
お世話になります。日々の情報共有で、どの程度クラウドを活用できているか、それによって、どの程度時間削減(効率化)が可能になったかお聞きしたいです。	一日中動いていますので、絶えずログイン状態です。教室と職員室との連絡や居員間での連絡もChatで行っています。時間削減にどの程度効果があるかは一概には言えませんが、会議は少なくなり、打ち合わせも少なくなっています。多くの教職員は19時前には帰宅できるようになってはいます。
個別最適化型の授業で評価として取り入れた方がよい観点や、また具体的な授業に対してどんな評価基準で評価をしているか具体例を教えてください。	自己調整の取組をどう組み取っていくかが大切だと考えています。授業の中ではパフォーマンス課題に対してB・A・Sの評価基準を示して生徒に挑戦させていく事が大切です。
これまでの一斉型の授業から、どのように学校として授業観を変換されましたか？本校はICT活用やクラウド活用は進んでいましたが、どうしても今までの一斉型の授業から抜け出せずにいます。	一斉指導の中でICTを活用しても学習成果には成果は出ない事、なぜ主体的な学習者の育成が必要なのかといった理念の部分を徹底して意思統一しました。一斉指導で参加しているだけの生徒がどのぐらいいるのか、協働的な学びの中ではお客さんになっている生徒がいらない事実等を取り上げていきました。本校でもすべてができてはいるわけではありませんが、授業改善を進めています。
中高連携をどう進めていくのかという点について、強い関心があります。アプリの活用や自由進度学習の様子を是非拝見させていただき、授業改善に繋げていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。	高校での教育DXは中学校以上に重要であり、高度なものとなるべきと考えています。現在の中学校間で大きな差がある中で高校でどういう取組を進めるかは悩ましいと思いますが、高校こそ生徒に自由に使わせて個別最適な学習を進めさせるのではないかと思いますし、特に端末活用は積み上げがなくても生徒はあつという間に教員を越える活用ができるようになります。
導入までのスケジュールを知りたい。今後、国や県がどのように進めて、各市町村がいつ導入していくのかわかる範囲で教えてください。	GIGAスクール構想の導入から3年、すでに新たなフェーズに入ってきていますので、次年度もしくは令和7年度からのゼロトラスト実現の中で学びのかたちや学校現場の業務遂行も変わってくると考えています。本校でもゼロトラストに向け、想定される課題について少しずつ話し合いを進めています。しかし、各自治体の財政状況で教育格差は拡大していくものと感じていますので、学校独自の取組も工夫していかなければいけないと考えています。
自由進度学習を進めるにあたって、教職員の共通理解について。	未来社会の激変からの必要性を共通理解していくようにしています。
家庭学習との連携について ICTを活用した個別最適化の具体的な取り組み	家庭学習内容は従来の宿題ではなく、先行学習課題をメインとして授業に繋がる課題を提示するようにしています。また、振り返り課題も家庭学習に位置付けることもあります。ICTを活用する学習は、スタディサプリやAIドリルの活用だけでなく、自分に合った学習方法で自分でアプリを選択できる状態を目指しています。
校内の研修体制について(実施回数、実施時期、研修講師等)	LIX事業の委託を受けた今年度は鳴門教育大学の泰山先生に入っていたいただき、今日の学校公開も合わせ、3回程度指導をいただきました。教育DXに関する研修は、正直ほぼ行っていません。20～30分程度の研修を年間数回行っているぐらいです。他の研修も短時間の研修を必要な時に絶えず行っています。アプリの使い方や活用の仕方は研修する必要なしというのが根本的な考え方であり、転動してきた先生も周りにちょっと聞いて自分で触っていればすぐに活用できるようになります。
・導入や推進をしていくにあたって苦労したこと ・生徒のタブレット使用ルール ・教員の情報端末利用にあたっての校内ルールはどうなっているか ・校務系PCの制限がどうになっているか。 ・推進をしていくにあたって、生徒の様子や教職員の働き方がどのような変容があったか	苦労というか、過渡期ですので絶えず課題が出てきて切り替えていっている状況です。生徒のタブレット使用のルールは、学習のために使う、壊さない程度のもので。時々生徒のボランティアグループがルールを作成して学年全体に呼び掛けることもあります。教員の端末活用のルールは、ログイン状態で教室に置きっぱなしにしない程度はあります。持ち帰りも自由です。校務系PCは市教委の決めたルールに従っています。生徒の様子の変容ですが、学校が目指す学びや活動のかたちを目指した活用をしている生徒ばかりではなく、活用ができていない生徒も一部いますので、これまでの学校教育現場と変わっていないかと思えます。着実に主体的に動いたり、情報を自分で整理して動いている生徒は増えていることは感じています。教職員の働き方は大きく変容しています。ペーパーレスや学級・学年経営等のパッケージ化の中で必要な業務を効率よく行うようになってきています。情報量は過剰となっていますので、その整理スキルが必要となっています。(これまでの学校ではわからなかった他の学年の動きや情報も絶えず入ってくる。)

推進する上で効果的なポイントと現時点で課題と捉えられていること	効果的なポイントは「生徒を主語にして考える」ことです。学校は教職員の自己実現の場ではないという観点から、未来の社会で生きていく子供たちのための教育を考えようという理念を大事にすることが最上位のポイントです。課題はいくらでもあります。どんな授業が望ましいのかについてもまだ不明確です。取り組みながら最適解を見つけていく姿勢で取組まないと先に進みません。
家庭への協力について、ハード面、ソフト面など発信やお願いは具体的にどんなことをされたのかお構いなし範囲で教えてくださいましたらと思います。	学びスタイルや学校の教育方針についてはリーフレットを作成して配布したり、授業はどのようにあるか等もお伝えし続けています。また、小学校段階からWi-Fi環境を整えていただく依頼や、これからの社会変化についてもお伝えするようにしています。一部本校のHPにも保護者宛文書を掲載していますのでご覧ください。また、受益者負担での学習アプリの導入についても訴えかけ、御理解をいただいています。
各アプリの利用方法だけでなく、利用時間などのデータなどを管理職の方や教員間で視覚化して共有などされているのかになります。先生差をどう埋めるのか、底上げしているのかを知りたいです。	各教職員で生徒の活用状況は見えるようになっていきます。また、各企業も定期的に利用状況や課題等を取りまとめて伝えてくれていますので、先生方にも状況を伝え、何に取組むべきかを伝えていきます。教科間、教員間で差が出てくることは否めませんが、大きな問題とは捉えていません。学校全体の総合的な活用状況を最も大切にしています。生徒に任せれば教師があまり活用しなくても生徒が使うようになります。
Chromebookなどの入力式端末の使用頻度によっては、ノートなどを使用して身につく筆記力が低下することはないのでしょうか。筆記力の担保をどのようにされていますか。	筆記力がどの程度必要のかも議論の絶えない部分です。中学校段階で必要な書く力の程度をどう考えるかですが、端末を使っているから全く書かなくなっているわけではなく、数学等は書く方が早い教科もあります。しかし、鉛筆の持ち方すらほとんどの生徒が正しくない状態であり、力加減も不適切です。書くことを重視すると文章表現が嫌いな生徒を量産してしまうという問題もあります。総合的に考えていかなければ、書くことは大切だからもっと書かさなければと単純に考えると、大事なものが失われる側面もあります。
個別最適化に特化した授業スタイル	自由進度学習が最適解に繋がるのかどうか、研究途上です。
成果と課題、デジタルとアナログの住み分け、学校が今後目指す理想の生徒像についてうかがいたいです。	本日の説明で少しご理解いただけるのかと思いますが、最終的に目指すのはデジタルとアナログも教師が判断して指示するのではなく、生徒個々に自分に合ったものを選択するようになることを目指しています。よって、授業成果物も手書きで出す生徒もいればドキュメントでまとめて提出する生徒もいます。
ICTを活用することによる学力の向上は見られるのか。	ICT活用が学力向上につながるとはいえないと考えています。従来通りの授業の中で活用するなら意味はないと思います。協働的な学びの中で自分に合った使い方を自由に選択しながら活用していけば新しい学力観に沿ったこれからの学力が向上するのではないかと考えます。しかし、絶対にいえることは、これまでの学力観、得点力の向上を目指した取り組みのためにGIGAスクール構想はあるのではない事です。
総社市ではチャットが使えない設定であるが、それでも荘内中の取組を取り入れることの効果は得られると思われませんか。	Classroomでもある程度同じことはできます。自治体の状況に応じてGメールの活用や様々な工夫はできるのではないのでしょうか。本校でも昨年度まではChatはほぼ使っていませんでした。
DXに関して荘内小学校とどの程度すり合わせをしているのか	義務教育9年間の情報活用能力の育成についての指導計画を作成しています。また、両校とも授業改善等の教育DX推進Chatを運用しており、お互いの状況を見合って情報共有をしています。
・生成AIを使った業務改善や授業作りについての事例 ・Google Workspace以外のアプリの活用について。 (SLAIDOやCanvaなど)	生成AI活用についての取組は「ねっトレ」の時間に行ったり、各授業で活用時に指導を行っています。少し足りないと感じていますので、今後さらに検討していきたいところです。Googleアプリ以外の者の活用は生徒に任せていますので、Canvaなどは委員会のポスター作成や総合のプレゼン制作で自由に使っています。非常に優れているので短時間で素敵なデザインで作成でき、効果は大きいと思っています。また、動画編集でClipchampを使用したり、テキストマイニング、Kafoot！等を自由に使っています。
授業でのICT活用による支援(筆記では、文字の形が取れない生徒も入力によって表現できる)を行うが、それによる観点別の評価や評定、高校入試での対応などにズレ(テストは従来どおりの筆記による場合や入試で入力が許されない(特別の配慮に該当するのか)など)があるとICTの推進より、筆記で表現できるように指導するべきなのか等校内でも意見が別れる。 評価の仕方や適切な指導・支援の在り方など、全国的な流れや方針などご示唆いただけることがあればお願いしたい。	書くことが苦手な生徒に対しては、通級による指導や通常学級の中での個別支援等で障害特性による困難さの克服に向けて対応すべきであり、ICT化が進めることは別の問題です。また、別の質問にも答えていますが、書くことも大事ですが、ICT化を目指すことで書くことがなくなるわけではなく、必要な時には書くわけです。今までの学校教育の中で書かせていた量からは減ると思いますが、入力により長い文章が抵抗なく書けるようになるという大きなメリットもあり、どの程度必要なのかという相対的な考えで進めていく必要があるものと思われます。大学入試が大きく変わり、知識偏重から脱却を目指している状態や、国家試験等も筆記ではなく、CBT化している状態も共通理解したいところです。
特別支援教育での効果的な利用について	支援が必要な生徒にICTが効果的であることは以前から言われていることですが、知的障害があってもGoogleアプリ等の活用は十分可能です。適切な使用についての指導を押さえながら、社会で生きるために必要なネット利用等を身につけさせていく事が必要と考えています。

令和5年11月

教育関係者のみなさんへ

中学校区一貫教育校園

玉野市立荘内中学校

校長 住田 義広

LDX 事業に係る動画紹介について

日頃より、本校教育の推進について、御支援いただき感謝申し上げます。
現在、本校では文部科学省のリーディング DX スクール事業の委託を受け、
実践事例の蓄積等に取り組んでいます。みなさんに、広く関連動画を紹介
しますのでご覧ください。なお、許可なく動画をネットのアップする等の
行為は御遠慮ください。



【学校 HP】
LDX 事業の
事例掲載



DUC@荘内中
いろんなデジ
タル情報満載

自由進度学習を進めよう



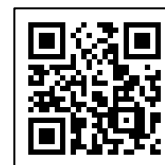
ルールメイキング道徳授業



GoogleChat で業務改善



授業改善の取組推進



自由進度学習：1 年社会科



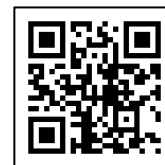
協同学習：3 年社会科



自由進度学習：1 年美術科



LDX 授業公開：2 年数学科



こみゅトレハ



進めよう！協同学習



生徒会役員選挙立会演説会



クラウドファンディングサイト



生徒独自で取り組む地域振興イベントです。
生徒たちがクラウドファンディングしています！
「コロナで沈んでしまった自分たちの地域をもっと
盛り上げよう！」という企画で、荘内中学校や住ん
でいる地域のことをもっと知ってもらったり、防災
やSGDsなどに関心を持ってもらえることを目的と
して行います。当日は、射的やスーパーボールすく
いなどの屋台を開いたり、中庭特設ステージでピン
ゴ大会やライブをしたり、プレゼン発表を行おうと
考えています。

また、荘内地域にある飲食店にも参加してもら
い、地域に住んでいる人も、そうでない人も、老若
男女が楽しめるようなイベントになっています。

よかったら応援してください！